



PAR Clear System設置ガイド

ドキュメント番号: 770510701JP

改訂A

目次

概要.....	6
安全情報.....	6
安全規則.....	6
使用目的.....	6
シグナルワード.....	6
システム警告.....	7
その他の規則.....	8
FCCおよびIndustry Canadaに関する情報.....	8
FCCおよびIC識別子.....	9
部品番号参照.....	10
PAR G-Portalセットアップ.....	11
前提条件.....	11
DT Cloud Portalでコーポレート／フランチャイズを作成する.....	11
DT Cloud Portalでサイトを作成する.....	11
DT Cloud Portalでサイト管理者を作成する.....	11
ベースステーションへのログイン.....	12
デジタルマイクとスピーカーの取り付け.....	14
必要な工具と資材*.....	14
設置の設計.....	14
アコースティックキット.....	16
外部スピーカーポストの準備.....	16
デジタルマイクとスピーカーの取り付け.....	17
内部取り付けおよび接続手順.....	17
デジタルマイクとスピーカーの点検・テスト.....	20
スピーカーポストの点検.....	20
デジタルマイクとスピーカーのテスト.....	21
PAR デジタルマイク仕様.....	22
物理仕様.....	22
電気仕様.....	22
機能仕様.....	22
PARスピーカー仕様.....	22
物理仕様.....	22
電気仕様.....	22

機能仕様	23
機械仕様	23
POEスイッチの設置	24
必要な工具と資材	24
設置の設計	24
POEスイッチの設置手順(付属スイッチの場合)	25
POEスイッチの接続	26
ベースステーションの設置	27
免責事項	27
必要な工具と資材	27
設置の設計	27
ベースステーションの設置	28
ベースステーションのテスト	32
ベースステーションのセットアップ	33
ベースステーション仕様	33
物理仕様	33
電気仕様	33
機能仕様	33
ベースステーション内部リファレンス	33
レールオーディオ インターフェース (LAI) の設置	36
必要な工具と資材*	36
設置の設計	36
LAI の取り付け	37
LAI接続	38
LAIのテスト	39
LAI仕様	40
物理仕様	40
電気仕様	40
機能仕様	40
トランシーバーの設置	41
必要な工具と資材	41
設置の設計	41
トランシーバーの設置	41
トランシーバーの接続	42
トランシーバーのテスト	43

トランシーバー仕様	44
物理仕様	44
電気仕様	44
機能仕様	44
車両検出ボード (VDB) の設置	45
必要な工具と資材	45
設置	45
車両ループ検出器のテスト	46
ベースステーションのカバーを閉じる	48
車両検出ボードの仕様	49
物理仕様	49
電気仕様	49
機能仕様	49
コマンドコンソールの設置	50
必要な工具と資材	50
設置の設計	50
コマンドコンソールの設置と接続	51
壁掛け設置	51
台座の設置	52
コマンドコンソールへのログイン	53
コマンドコンソールへの仕様	54
物理仕様	54
電気仕様	54
機能仕様	54
バッテリー充電器の設置	55
必要な工具と資材	55
設置の設計	55
バッテリー充電器の取り付け	55
バッテリー充電器の仕様	56
物理仕様	56
電気仕様	56
機能仕様	56
ヘッドセット充電ステーションの仕様	56
物理仕様	56
電気仕様	56

機能仕様	56
ヘッドセットの取り付け／セットアップ	57
ヘッドセットの登録	58
ヘッドセットの登録解除	58
ヘッドセットの操作	59
注文受付のセットアップ	60
音量設定の変更	61
インバウンドヘッドセット音量	61
アウトバウンドレイン音量	61
ヘッドセットの仕様	61
物理仕様	61
電気仕様	61
機能仕様	62
バッテリーの仕様	62
物理仕様	62
電気仕様	62
機能仕様	62
化学仕様	62
一般的なネットワークケーブルの設置	63
代表的なツイストペア配線規格	63
ループおよびケーブルの状態確認テスト	64
導体の直線抵抗およびインダクタンスのテスト	64
絶縁抵抗試験	64
手順	64
Saw – インループ仕様	65
Prefab ループ仕様	65
デュアルレーンの設置・設定	66
ネットワーク仕様・要件	67
PAR Clearネットワークの要件	67
トラブルシューティング	68
改訂履歴	73

概要

安全情報

安全規則

本書に記載された安全に関するすべての情報をよく読み、理解し、遵守したうえで、PAR Clear Drive Thru 通信システムおよびそのコンポーネントを設置・操作してください。ここに記載された手順に従わない場合、感電、火災、および／またはその他の人身事故を引き起こすおそれがあります。本書は将来の参照のために保管しておいてください。

使用目的

PAR Clearドライブスルー通信システムおよびそのコンポーネントは、クイックサービスのドライブスルーレストランやコンビニエンスストアにおいて、双方向の無線音声通信を提供するために使用されることを目的としています。

本システムはPAR認定サービス担当者による専門的な設置のみを必要とし、クイックサービスのドライブスルーレストランおよびコンビニエンスストアにおいて、PAR Clear Drive Thru通信システム設置手順書に従って設置され、PAR Clearドライブスルー通信システム取扱説明書に従って操作されなければなりません。その他の用途や場所での使用については評価されていません。

シグナルワード



警告

回避しない場合、死亡または重傷、および／または物的損害につながるおそれのある潜在的に危険な状況を示します。



注意

回避しない場合、軽傷または中程度の傷害、および／または物的損害につながるおそれのある潜在的に危険な状況を示します。

① 重要な注意事項

回避しない場合、物的損害につながるおそれのある潜在的に危険な状況を示します。「重要な注意事項」に記載されている情報には十分にご留意いただくことを強く推奨します。

システム警告



危険な電圧に関連するリスクを低減するために:

- ベースステーションの電源を設置または取り外す前に、必ずコンセントの電源を切ってください。コンセントカバーのねじを外す際、カバーがプラグピンに落下したり、コンセントが外れたりする場合があります。中央にねじの付いた2口コンセントでのみ使用してください。ユニットはコンセントカバーのねじで確実に固定してください。
- 電源に接地ピンが備わっている場合は、直接接地コンセント(3ピン)に接続してください。
- 電源コードまたは筐体が破損している場合は、PAR Clear Drive Thru通信システムおよびそのコンポーネントを使用しないでください。
- 電源装置は屋内かつ乾燥した場所でのみ使用してください。



火災、爆発および財産損害に関連するリスクを低減するために:

- バッテリーが熱を帯びる、色や形が変化する、異臭を発する、その他の異常または損傷が見られる場合は、直ちに使用を中止してください。
- 55°C/130°Fを超える熱にさらしたり、バッテリーを開封、分解、穴あけ、ひび割れさせる、押しつぶす、焼却するなどの行為は行わないでください。
- バッテリーを金属製品と一緒に保管または携帯しないでください。バッテリーは涼しく、乾燥した清潔な場所に保管してください。
- バッテリー、バッテリー充電器、電源装置、その他すべてのシステムコンポーネントは、必ずPARが承認した本システムに使用可能なユニットと交換してください。バッテリーを交換する際は、必ずPAR専用のモデルバッテリーを使用してください。他のバッテリーを使用すると、火災や爆発の危険が生じる可能性があります。
- バッテリーを水やその他の液体に浸さないでください。
- 損傷や異常が見られる場合は使用を中止してください。定期的にバッテリーの外観を点検し、形状や色の変化などの損傷や異常がないか確認してください。
- PARドライブスルーヘッドセット用の12スロットバッテリー充電器およびPARドライブスルーヘッドセット充電ステーションには、追加の充電器を接続するための2つの電源接続口が付属しています。設置時には、1つの充電器または相互接続された一連の充電器に対して、複数の電源を接続しないでください。
- このPAR Clear Drive Thru通信システムおよびそのコンポーネントを改造しないでください。
- 追加の充電方法や使用方法については、設置ガイドおよび操作ガイドをご参照ください。



バッテリーパックによる環境汚染に関連するリスクを低減するために:

- バッテリー、電源装置、バッテリー充電器およびベースステーションは、国、州／都道府県、および地域の要件に従って廃棄してください。希望される場合は、これらの部品をPARサービスセンターに返送し、リサイクルすることもできます。
- 多くの充電式バッテリーは、地域、州／都道府県、および国の法律によりリサイクルが義務付けられています。バッテリーまたはバッテリーパックを適切にリサイクル／廃棄するには、必ず地域の一般廃棄物処理規則に従ってください。米国およびカナダでは、PARはCall2Recycle (RBRC) と提携し、製品に含まれる充電式バッテリーが適切にリサイクルされるよう、リサイクルサービスを提供しています。このサービスの利用については、Call2Recycleバッテリーリサイクル情報ヘルプライン
 - 1-800-8-BATTERY (1-800-822-8837) にお電話いただくか、以下のウェブサイトでCall2Recycleのバッテリーリサイクルガイダンスをご参照ください。www.call2recycle.org

その他の規則

FCCおよびIndustry Canadaに関する情報

①重要な注意事項

FCC RF曝露に関する声明:

PAR Clear Drive Thru通信システムおよびそのコンポーネントは、非管理環境に対して定められたFCCのRF放射曝露制限に準拠しています。これは、平均出力に基づいて動作し、デューティサイクルが7.63%を超えず、25mmの離隔距離を確保して使用する場合に適用されます。本ワイヤレスシステムは、他のアンテナや送信機と同一の場所で設置したり、併用したりしてはなりません。

PAR Clear Drive Thru通信システムおよびそのコンポーネントは、FCCのRF放射曝露制限に準拠しています。本機器は、放射部と人体との間に少なくとも20cmの距離を確保して設置・使用してください。これには、PARが承認した外部アンテナも含まれます。

PAR Techが承認していないアクセサリ（バッテリー、アンテナ、壁用アダプター、充電器、イヤークリップ、フォームチップ、コンバーチブルカバーなどが含まれますが、これらに限定されません）を使用すると、PAR Clear Drive Thru通信システムおよびそのコンポーネントの故障を引き起こす可能性があります。また、承認されていない電気アクセサリやアンテナを使用すると、RFエネルギー曝露ガイドラインを上回る可能性があります。

FCCによる規定:

本機器はテストの結果、FCC規則第15条に基づくClass Aデジタル機器の規定に適合していることが確認されています。これらの規定は、本機器を商業環境で運用する際に有害な干渉から合理的に保護することを目的としています。本機器は無線周波数エネルギーを発生、利用、放射することがあり、取扱説明書に従って設置・使用しない場合、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。本機器を住宅環境で使用すると有害な干渉を引き起こす可能性が高く、その場合、ユーザーは自己の負担で干渉を解消する必要があります。

カナダの規定: CAN ICES-3 A/NMB-3 A

本装置は、印刷日現在においてFCC規則第15条およびIndustry Canadaのライセンス免除規格RSS-210に準拠しています。操作は、次の2つの条件に従うものとします。(1) 本装置が干渉を発生することはありません。(2) 本装置は、望ましくない動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、あらゆる干渉を受け入れなければなりません。

Cet appareil est conforme avec la norme RSS-210 d'Industrie Canada exempte de licence à compter de la date imprimée. Son fonctionnement est soumis aux deux conditions suivantes : (1) cet appareil peut causer des interférences, et (2) cet appareil doit accepter toute interférence, y compris celles pouvant provoquer un fonctionnement indésirable de l'appareil.

FCCおよびIC識別子

PAR Clear ヘッドセット:

FCC ID: AVHPCH1

IC ID: 10329A-PCH1

PAR Clear トランシーバー:

FCC ID: AVHPCT1

IC ID: 10329A-PCT1

①重要な注意事項

本デバイスを改造する場合は、PAR Techの書面による同意が必要です。許可されていない改造を行った場合、本デバイスの運用を認める連邦通信規則およびカナダ規則に基づく権限が無効となる可能性があります。

リサイクル／廃棄について(欧州連合のお客様へのお知らせ)



これらの製品は、寿命を迎えた際に、関連する法律および規則に従って廃棄またはリサイクルする必要があります。



欧州連合(EU)の「電気電子機器廃棄物に関する指令(Directive 2012/19/EU)」に基づき、電気・電子機器製品は一般家庭廃棄物として廃棄することができなくなりました。また、対象となる電子機器の製造者は、製品が使用寿命を終えた際にそれらを回収する義務を負います。適切な廃棄およびリサイクル方法については、最寄りの PAR 担当者にお問い合わせください。

部品番号参照

部品番号	説明
M7800	PAR® ドライブスルーベースステーション(電源付き、PAR Clear)
78801698131	磁気ループキット(埋設型)
75040033724	磁気ループ(既製品)
K7801	PAR® LAi - レーンオーディオインターフェース
K7802	PAR® アレイマイク(フォームブロック付きアセンブリ) Clear
K7803-04	PAR® PoEスイッチ 4+1ポート、PAR Clear
K7807-01	PAR Clear 壁掛け型トランシーバー - FCC準拠
K7807-02	PAR Clear 壁掛け型トランシーバー - CE準拠
K7807-03	PAR Clear 壁掛け型トランシーバー - 日本仕様
K7808-01	PAR Clear (G7) コントロールポッド - ユニバーサル
K7806	PAR Clear 車両検知キット
C8602R	3メートル USB A/B ケーブル
78811748793	PAR Clear バッテリー(拡張タブ付き)
78811746581	ドライブスルー用ヘッドセット充電ステーション
78811746573	バッテリー充電器 G5(12スロット)
78691152231	電源装置、バッテリー充電器／充電ステーション
78811746326	ドライブスルー用ヘッドセットキャリア
465006501D	PAR® 300フィート巻き Cat5eネットワークケーブル(LAI > Network 用)
70071544665	PAR® アコースティックキット
M7810	PAR® Clear コマンドコンソールディスプレイユニット
K3712D	PAR® Clear コマンドコンソールウォールマウント
78691152025	PAR® スピーカーアセンブリ(デュプレックス、4インチ)

PAR G-Portalセットアップ

前提条件

- インターネットにアクセスできるデバイス(ノートパソコン、タブレット、またはデスクトップPCなど)
- PAR Drive-Thru Cloud Portal(<https://portal.drivethru.partech.com>)にアクセス可能なインターネット接続
- PAR Drive-Thru Cloud Portalのアカウント

DT Cloud Portalでコーポレート／フランチャイズを作成する

1. インターネットに接続可能なノートパソコンまたはコンピューターで、提供されたアドレスまたはリンクからベースステーション上のPAR Drive-Thru Cloud Portal(<https://portal.drivethru.partech.com>)にログインし、認証情報を入力します。
2. *アカウントおよび／または設定中のベースステーションにすでにコーポレートが存在する場合、この手順は省略できます。*
[Corporations(企業)]セクションに移動し、[Corporations(企業)]を選択して[+ Add New Corporate(+企業を追加)]をクリックします。
3. 必要な項目を入力し、[Add Corporate(企業を追加)]をクリックします。
4. *アカウントおよび／または設定中のベースステーションにすでにフランチャイズが存在する場合、この手順は省略できます。*
[Franchise(フランチャイズ)]セクションに移動し、[+ Add New Franchise(+フランチャイズを追加)]をクリックします。
5. 必要な項目を入力し、[Add Franchise(フランチャイズを追加)]をクリックします。

DT Cloud Portalでサイトを作成する

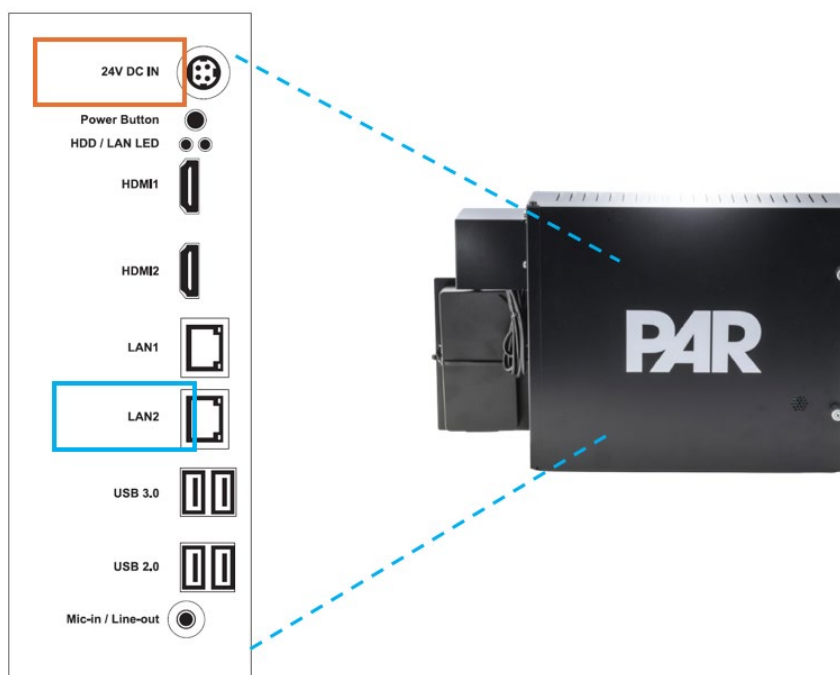
1. [Sites(サイト)]セクションに移動し、[+ Add New Site(+新しいサイトを追加)]をクリックします。
2. 必要な項目を入力し、[Add Site(サイトを追加)]をクリックします。
3. サイトが追加されると、ポップアップ画面が開き、**6桁のアクティベーションコード**が表示されます。**コピーボタンをクリックしてコードをコピー**するか、書き留めます。コードの有効期限は24時間で、1回限り使用可能です。コードをコピーまたは書き留めた後は、ポップアップを閉じて構いません。

DT Cloud Portalでサイト管理者を作成する

1. [Users(ユーザー)] > [Site Admins(サイト管理者)]の順に移動します。
2. [+Add New Site Admin(+新しいサイト管理者を追加)]ボタンをクリックし、[Name(名前)]と[Email(Eメールアドレス)]のフィールドに入力します。
3. [Select a Site(サイトを選択)]ドロップダウンメニューから該当するサイトを選択し、[Add User(ユーザーを追加)]をクリックします。

ベースステーションへのログイン

1. ベースステーションを開き、イーサネットケーブルの一端をベースステーションのLAN 2に接続します。次に、電源アダプターをベースステーションに接続し、電源を入れます。



2. ベースステーションが起動するまで約1～2分間待ち、同じイーサネットケーブルのもう一方の端をノートパソコン／コンピューターに接続します。
3. ノートパソコン／コンピューターのイーサネットポートを「Static(静的)」に設定し、ベースステーションのデフォルトネットワーク設定と同じ範囲に合わせます(以下にWindows PCでの例を示します)。
 - a. IP = 192.168.99.44 (例のみ - ベースステーションのデフォルトIPは192.168.99.77です)
 - b. サブネットマスク = 255.255.255.0
 - c. デフォルトゲートウェイ = 192.168.99.1
 - d. DNS = 8.8.8.8, 1.1.1.1
4. ブラウザウィンドウを開き、アドレスバーに<http://m7800-0810:7800/>と入力し、**Enter**キーを押します。
5. デフォルトパスワード「12345」を入力します。ログイン後、パスワードの変更を求められます。[**Set Password(パスワードを設定)**]をクリックして、パスワードを変更します
 - a. パスワードの最低要件: 8文字、記号1つ、大文字1つ、数字1つ。
6. [Network Setup(ネットワークのセットアップ)]画面が表示されます。[Control Unit Network(コントロールユニットネットワーク)]セクションの「DHCP」または「Static」。「Static(静的)」を選択した場合、残りのフィールドに店舗のITチームから提供された値を入力します。[**Save & Next(保存して次へ)**]ボタンをクリックして続行します。
7. ベースステーションのLAN2からイーサネットケーブルを抜きます。
8. ノートパソコン／コンピューターのネットワークイーサネットポートを以前の設定に戻し、ノートパソコン／コンピューターを店舗のオープンネットワークに接続します。

9. ブラウザウィンドウを開き、アドレスバーに<http://m7800-0810:7800>と入力し、**Enter**キーを押します。
10. ステップ5のパスワードを入力し、**[Login(ログイン)]**をクリックします。
11. ステップ6のネットワーク情報が正しいことを確認し、**[Save & Next(保存して次へ)]**をクリックします。
12. 次に**[Cloud Setup(クラウドのセットアップ)]**画面が表示されます。**[Save & Next(保存して次へ)]**をクリックして進みます。これらのフィールドはあらかじめ入力されていますが、PAR社員の指示がない限り編集しないでください。
13. **「Certificate Claim(証明書の請求)」**画面が表示されます。**[Activating Hardware in a New Site(新しいサイトでハードウェアを有効化)]**を選択します。アクティベーションコードを入力するフィールドが表示されます。先ほど「[DT Cloud Portalでサイトを作成する](#)」のステップ3でコピーしたアクティベーションコードを貼り付けるか、または入力します。**[Claim Certificate(証明書を請求)]**をクリックします。画面が読み込まれ、「Connected Successfully(接続されました)」というメッセージが表示されれば完了です。エラーメッセージが表示された場合は、上記「[DT Cloud Portalでサイトを作成する](#)」のステップ3をやり直して新しいコードを生成してください。それでも解決しない場合は、PAR Drive Thruサポートへご連絡ください。
14. Drive Thru Cloudを開き、認証情報を使ってログインします。
15. **[Devices(デバイス)]**に移動し、「[DT Cloud Portalでサイトを作成する](#)」セクションで追加した**「Site Name(サイト名)」**を探します。
16. デバイスの**[Actions(アクション)]**列を選択し、**[Settings(設定)]**に移動してデバイスにアクセスできることを確認します。

デジタルマイクとスピーカーの取り付け



必要な工具と資材*

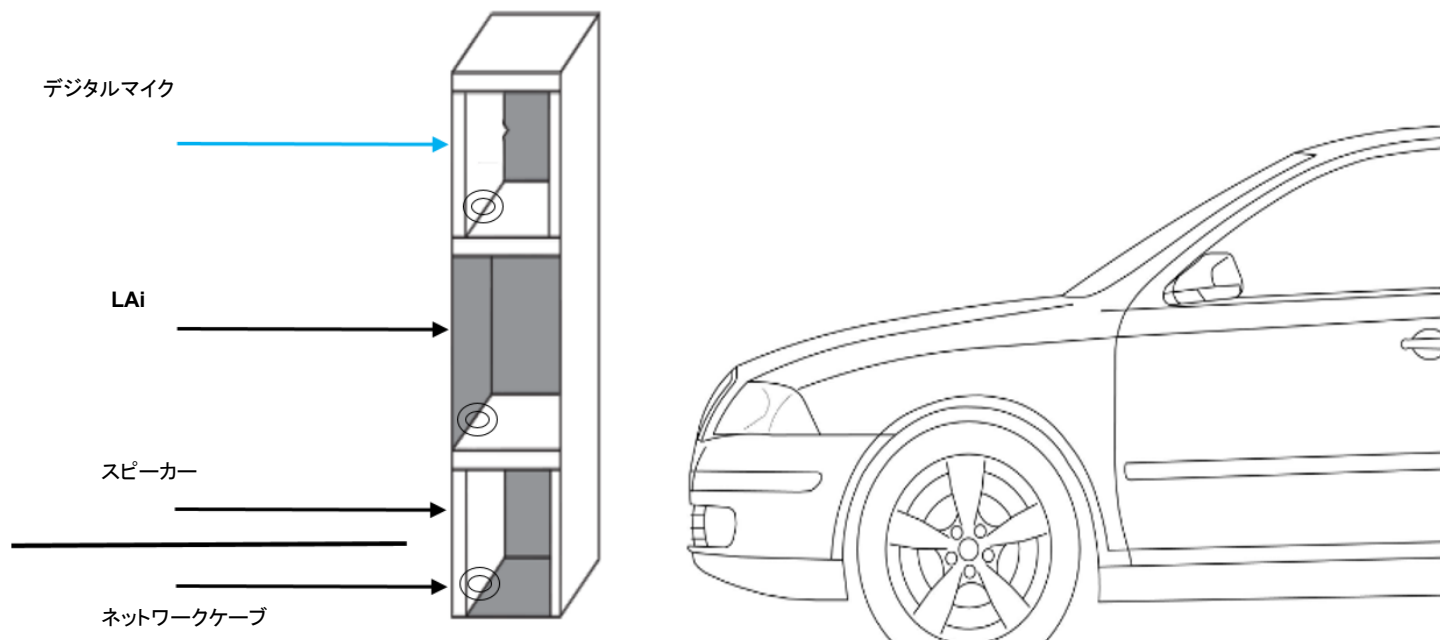
*以下は、LAI、スピーカー、Basestationベースステーション、トランシーバー、POE、ネットワークケーブルなどのシステムコンポーネントがすでに設置済み、または設置予定であることを前提としています

- PARアコースティックキット、部品番号:70071544665(必要に応じて)
- 基本工具類:ドライバー、結束バンド、はさみ、ハンドドリル(必要に応じて)

設置の設計

デジタルマイクとスピーカーは、メニュースピーカーが配置されているスピーカーポストの内部に設置してください。

1. 設置にあたり、以下の点を確認してください。
 - a. マイクケーブルおよびスピーカーケーブルがLAI まで届く範囲内にあること
 - b. マイクは、スピーカーから約60cm(24インチ)の高さに設置し、仕切りを設けることを推奨
 - c. 顧客(車内)とマイクの距離は約90cm(約3フィート)(マイクの軸線上)



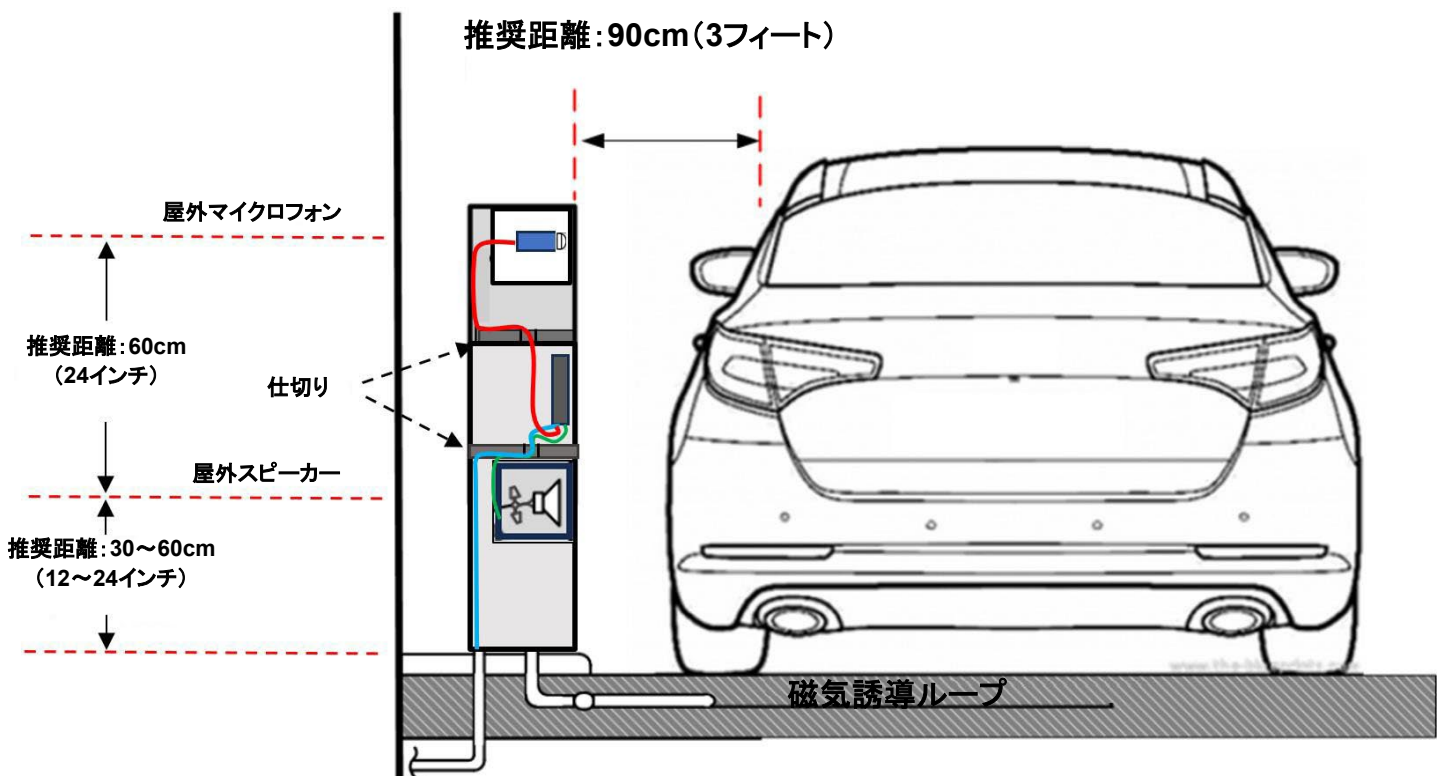
推奨距離でスピーカーポストのマイク前に車が停止する位置は、次の要因に左右されます。

- ドライブスルー内でのスピーカーポストの設置場所
- 車両の旋回半径

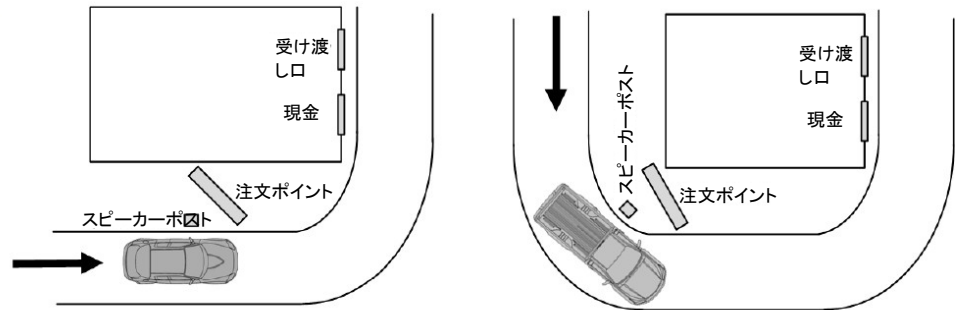
マイクで收音される音の品質はSOUND PRESSURE(音圧)に左右される。主な決定要因は、1) 顧客(車内)までの距離、2) 音の投射方向。設置上の問題となり得るマイクの位置:

- 縁石から離れすぎ(90cm以上)、またはメニューボード上に設置された場合
- 車両の自然な停止位置より上方や後方に設置された場合
- 高すぎる位置に設置すると、周囲雑音を拾いやすい
- スピーカーに近すぎる場合、またはポスト内で十分にスピーカーから分離されていない場合

マイクの理想的な設置高さは約91~102cm(約36~40インチ)で、多くの車両のサイドミラーよりやや上方かつ前方に位置させます。



スピーカーポストは、下図に示すようにドライブスルーの直線部分に設置することを推奨します。カーブの角に設置するのは避けてください。小回りのきく車両であればスピーカーポストの前に正しく停車できますが、大きな回転半径を持つ車両では、スピーカーポストより前に出過ぎたり、手前で止まってしまったり、あるいは離れすぎてしまうことがあります。



推奨スピーカーポスト位置

不適切なスピーカーポスト位置

アコースティックキット

PARアコースティックキットは、コミュニケーションポスト向けに設計されており、新規設置にも既存システムの改修（レトロフィット）にも対応可能です。さまざまなハウジングデザインと組み合わせて使用でき、1キットで標準的なマイク・スピーカーシステムに必要な資材が揃っています。単一ハウジング内にマイクとスピーカーを収める場合にも、別々のハウジングに設置する場合にも使用可能です。

ガイドラインに従って設置すれば、これらのコンポーネントはシステムとして連携し、音声の明瞭度の向上に寄与します。システム構成部品：

- PAR防振テープ（5cm×25cm／1インチ×10インチ）6枚
- TUFECOTE® TBKフェイスフォーム（2.5cm×20cm×68.5cm／1インチ×8インチ×27インチ）2枚
- Thinsulate™ 吸音材（5cm×30.5cm×76cm／2インチ×12インチ×30インチ）1枚



外部スピーカーポストの準備

1. 内部が清潔で乾燥していることを確認します。
2. PAR防振テープをハウジング内部の上面と側面の壁に貼り付けます（図1）。
3. はさみを使って、上面の長さより約1インチ短いテープを1枚切り出します。側壁の長さより約2.5cm短いテープを2枚切り出します。

4. 裏紙を剥がし、各テープをハウジング内壁の中央に配置して貼り付けます。
5. 図に示すように、各テープをハウジングの上面および側面の内側の中央に貼り付けます。
6. TUF COTE® TBKフェースドフォームを、ハウジングの内側および制振テープの上に取り付けます(図2)。
7. フォームがハウジング内部に正しく収まるか確認します。フォームは、上下逆さの「U」字型に成形して天井面と側面に一体で取り付けるか、各面に合わせて個別に切り出して取り付けることができます。
8. 裏紙を剥がし、フェースドフォームをハウジング内壁の中央に配置して貼り付けます。
9. フォームの中央を天井面の中心線に合わせ、両端に向かって位置を調整し、キャビティの上面と側面に中央揃えになるように配置します。
10. 正しく位置決めできたら、フォームをしっかり押し付けて固定します。
11. 最後にThinsulate™ 吸音材を取り付けます(図3)。
12. ハウジングを吸音材で軽く覆います。見栄えを良くするため、吸音材の黒い面をハウジングの外側に向けて配置します。

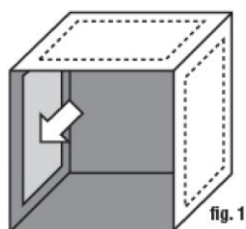


fig. 1

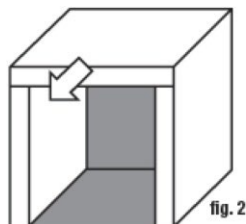


fig. 2

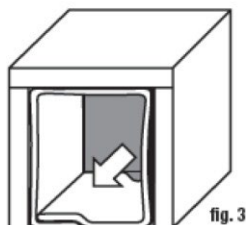


fig. 3

デジタルマイクとスピーカーの取り付け

ここでは、新しいPARデジタルマイクとスピーカーを組み込んだマイクフォームブロックのアセンブリを、スピーカー／注文ポストに取り付ける手順を説明します。作業を始める前に、必ず以下の手順を確認してください。これらの手順は一般的な内容であり、標準的なスピーカーポストにおける一連の設置作業を説明しています。取り付け対象のメニューサインやスピーカーポストの形状が本説明の図例と異なる場合は、手順を一部調整する必要があります。なお、PARデジタルマイクボックスとフォームアセンブリは、スピーカーと同じポスト内部にのみ設置可能です。

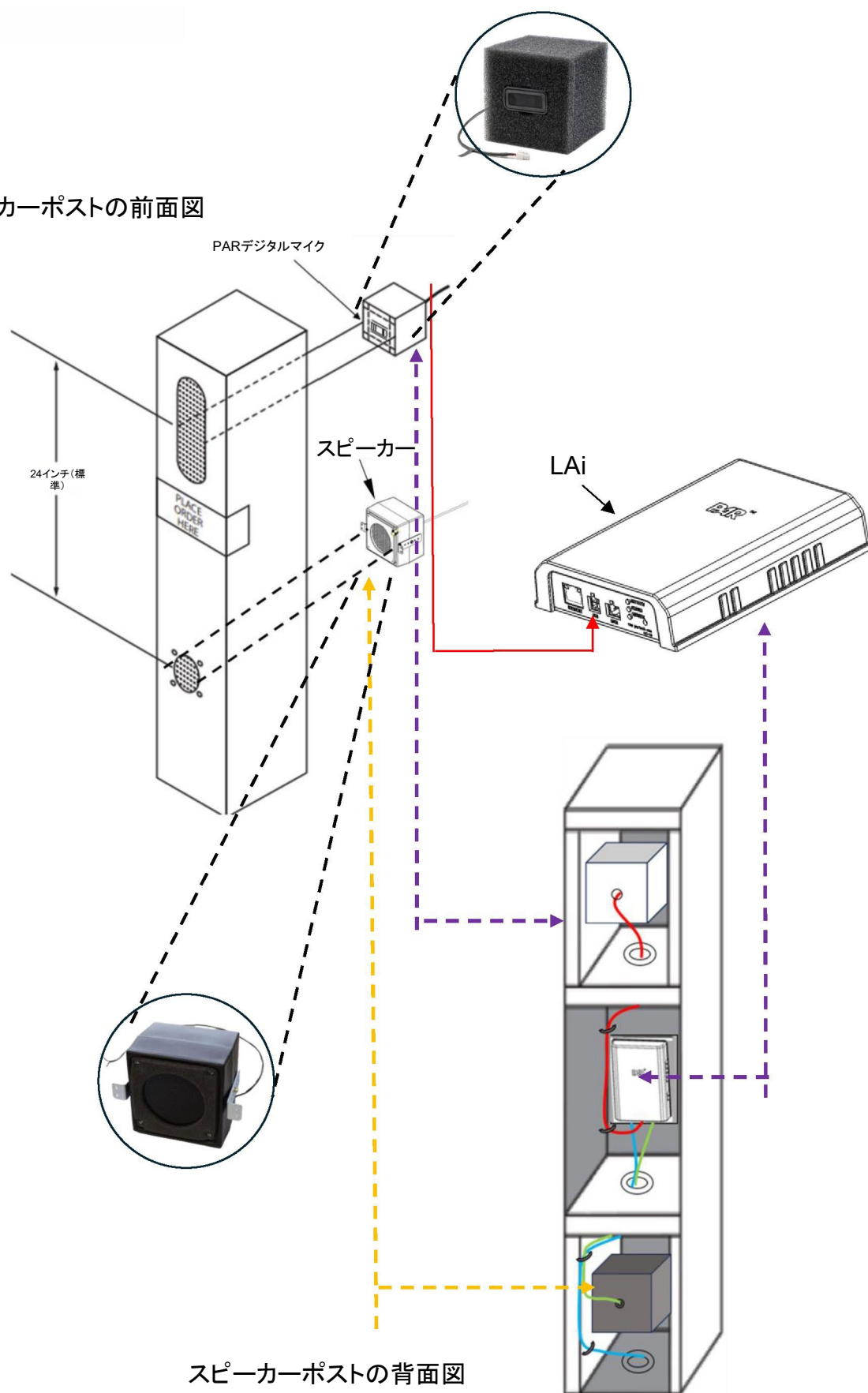
内部取り付けおよび接続手順

1. フォームマイクブロックの切り取り部分を1つ以上取り外し、設置スペースに合う大きさに調整します。フォームがスペースにしっかり収まることを確認します。さらに切り取りが必要な場合は、鋭利なはさ

みを使用するのが最適です。

2. デジタルマイクボックスをフォーム内に挿入し、ウィンドスクリーンを外側に向けます。マイクボックスは、雨滴が直接当たらないように、フォーム内に約1cm(約3/8インチ)奥まった位置に設置してください。
3. 完成したフォームアセンブリをポストエンクロージャーに挿入し、配線を背面から外に出してLAIレーンハードウェアに接続できるようにします。
4. 白いコネクタをLAIのMIC入力に接続します。
5. スピーカーボックスをポストに挿入します。
6. スピーカーを緑色のフェニックスコネクタに接続し、LAIのSPKR入力に差し込みます

スピーカーポストの前面図



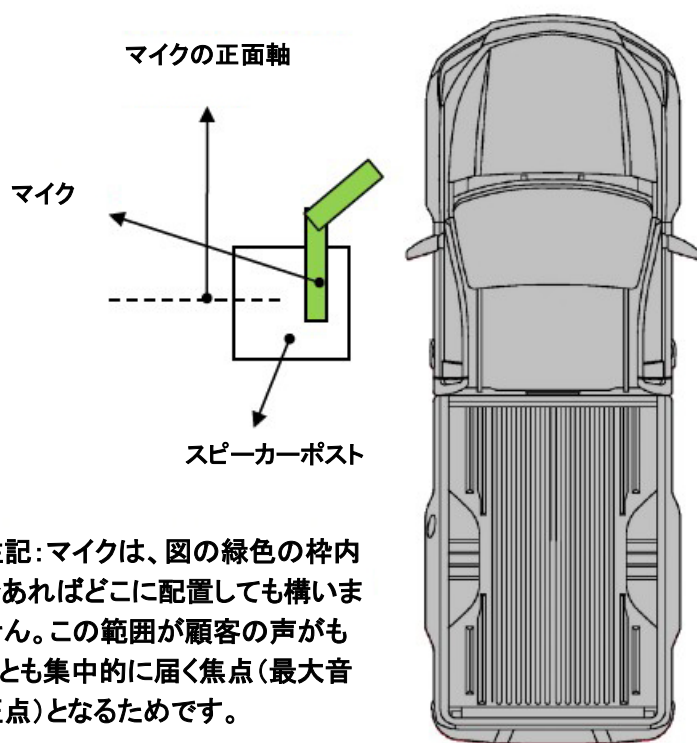
スピーカーポストの背面図

デジタルマイクとスピーカーの点検・テスト

スピーカーポストの点検

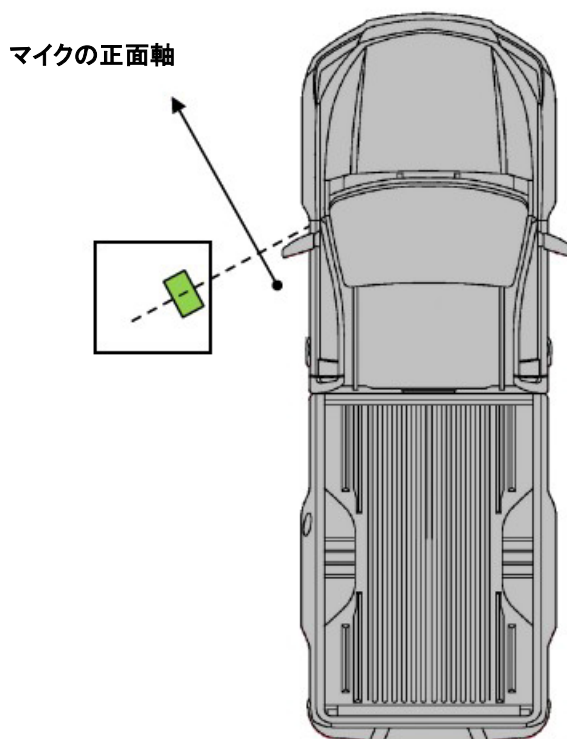
- マイクとスピーカーが正しい位置から動いていないことを確認してください。
 - 音響処理材がマイクやスピーカーの前にずり落ちていないことを確認してください。
 - マイクの軸（垂直軸／正面軸）が、車両内の顧客に向かって正しく合っていることを確認してください。
- 上記のいずれかに問題があると、デジタルマイクは顧客の声を正確に拾えず、周囲の雑音を多く拾ってしまいます。

マイクの正しい配置例



注記: マイクは、図の緑色の枠内であればどこに配置しても構いません。この範囲が顧客の声がもっとも集中的に届く焦点（最大音圧点）となるためです。

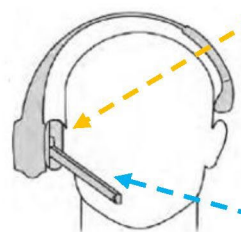
マイクの誤った配置例



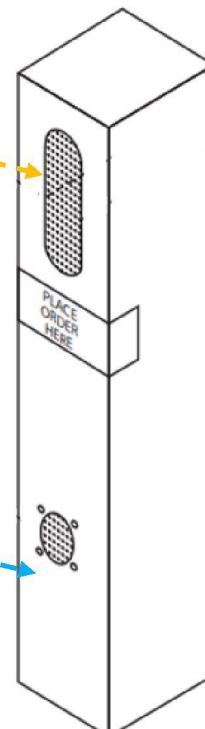
デジタルマイクとスピーカーのテスト

1. 登録済みのヘッドセットを使用し、システムの入音と出音を確認します。インバウンド(入音): 外側の注文ポストのマイクから拾った音声が入音、注文受付者のヘッドセットスピーカーから聞こえることを確認します。アウトバウンド(出音): 注文受付者がヘッドセットの「トークボタン」を押して話すと、その音声が入音スピーカーポストから出ることを確認します。確認方法としては、別のの人に実際に立ってもらるか、または車両で近づいてマイクに話しかけてもらい、顧客の注文をシミュレートできます。ゲインは、DTポートを使用し、設置環境や現場に合わせて調整してください。(本ガイドで説明したその他のシステム構成部品がすでに設置されていることを前提とします。)

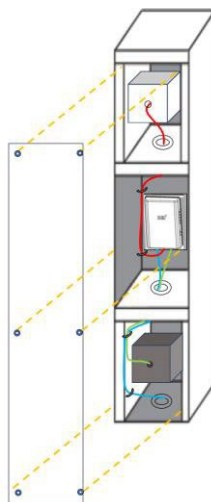
インバウンド(ヘッドセットスピーカー→メニューマイク)



アウトバウンド(ヘッドセットマイク→メニュースピーカー)



2. 入音と出音のオーディオ設定が適切であることを確認したら、スピーカーポストのカバーを元に戻します。



PAR デジタルマイク仕様

物理仕様

パラメーター	仕様または要件
寸法(長さ×幅×奥行)	約7.5cm×1.6cm×4.1cm(3インチ×1 5/8インチ×1.5インチ)
重量	73.7グラム(2.6オンス)

電気仕様

パラメーター	仕様または要件
周波数帯域	150～7000Hz
マイク	MEMS - 高ダイナミックレンジ

機能仕様

パラメーター	仕様または要件
動作温度	-40℃～70℃

PARスピーカー仕様

3M™スピーカーアセンブリ(デュプレックス、4インチ仕様)

部品番号:78-6911-5202-5

物理仕様

パラメーター	仕様または要件
ブラケットなしの寸法(長さ×幅×奥行)	約14cm×14cm×11.6cm(5.5インチ×5.5インチ×4.563インチ)
ブラケット付きの寸法(長さ×幅×奥行)	約18.2cm×14cm×11.6cm(7.149インチ×5.5インチ×4.563インチ)
重量	約1.2kg(2ポンド11オンス / 43オンス)
公称バスケット径	100.0mm(4.0インチ)
ボイスコイル径	25.4mm(1.0インチ)
マグネット重量	284グラム(10.0オンス)

電気仕様

パラメーター	仕様または要件
周波数帯域	200～10,000Hz
感度	92dB SPL(2.83V入力、1mで測定)
インピーダンス	公称8Ω
定格電力	15W
プログラム電力	30W

機能仕様

パラメーター	仕様または要件
動作温度	-40℃～70℃

機械仕様

パラメーター	仕様または要件
バスケット	プレス鋼板
端子サイズ	0.205×0.02
マグネット	フェライト
ボイスコイル線材	銅
ボイスコイルの巻枠	アルミニウム
コーン	耐水紙
コーンエッジ	処理済み黒布
ダストキャップ	紙

POEスイッチの設置

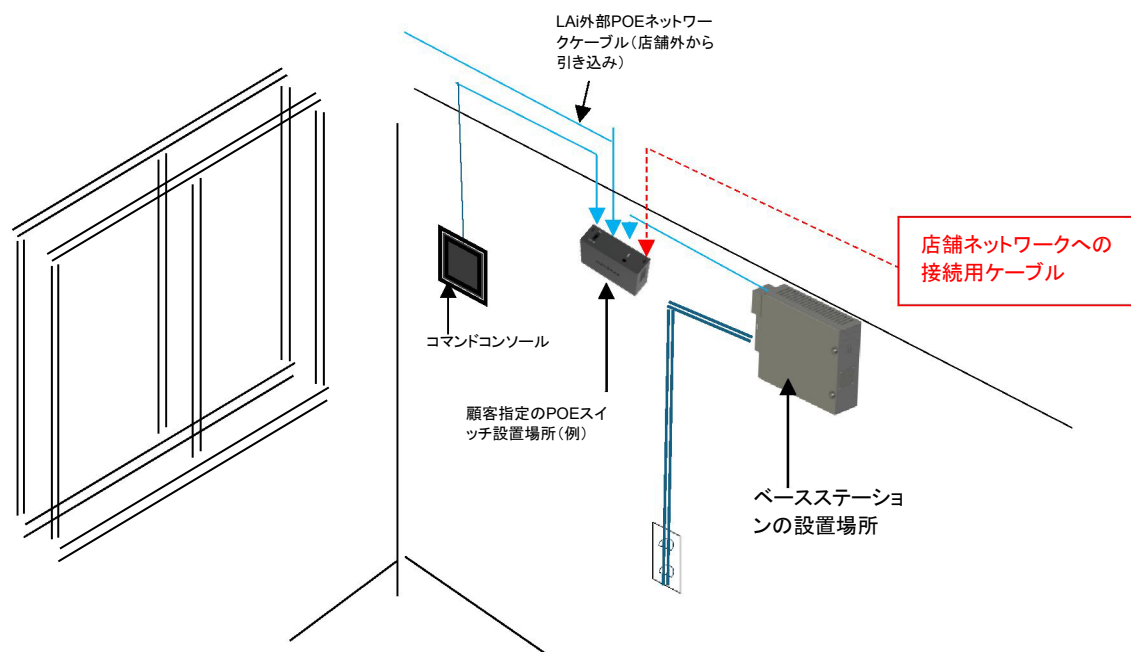
必要な工具と資材

- 各種板金ねじ、または現場に応じた壁用アンカーおよびねじ
- 基本工具セット(ドライバー、ハンドドリル、ドリルビット、巻尺)
- 電線管(必要に応じて)

設置の設計

最終的な設置場所を決定する前に現場調査を行う。

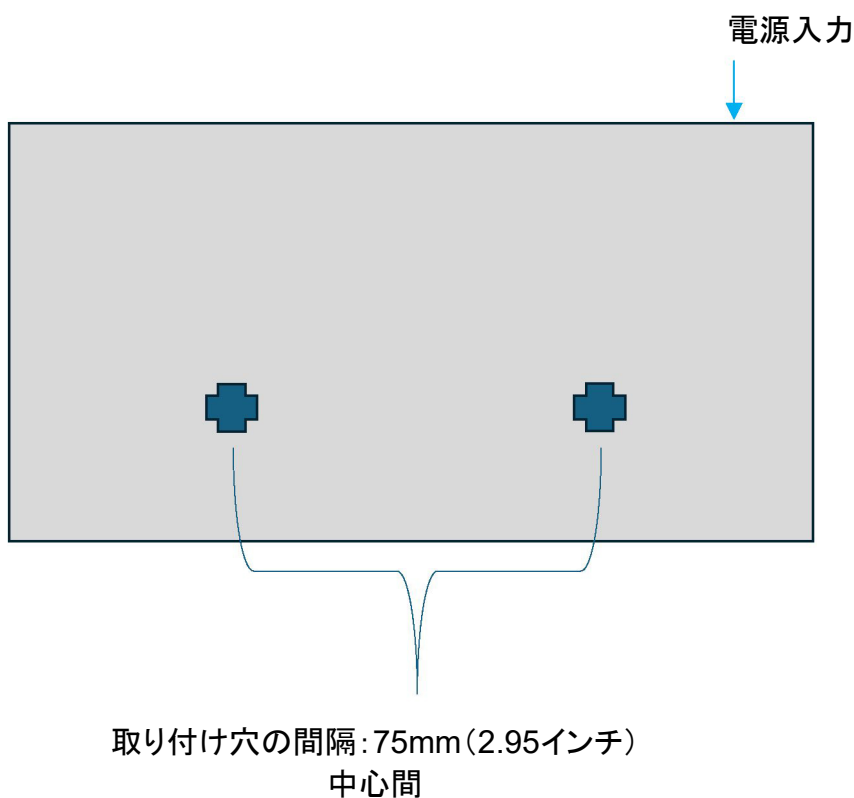
- POEスイッチの希望設置場所(壁面取り付け可能)を選定する。
 - 選定した場所に店舗ネットワークへ接続可能なネットワークラインがあることを確認する。
 - LAiのネットワークケーブルがPOEスイッチに届く位置にあること。
 - POEスイッチが電源コンセントまたは承認済みサージプロテクターに届く位置にあること
 - 現場に合わせて電線管を使用すること(必要に応じて)
(例: 以下はシステムを接続する方法のひとつとして、ベースステーションとコマンドコンソールを同じスイッチに接続する構成を示しています。)



POEスイッチの設置手順(付属スイッチの場合)

付属の壁面取り付け用ねじの使用を推奨します。

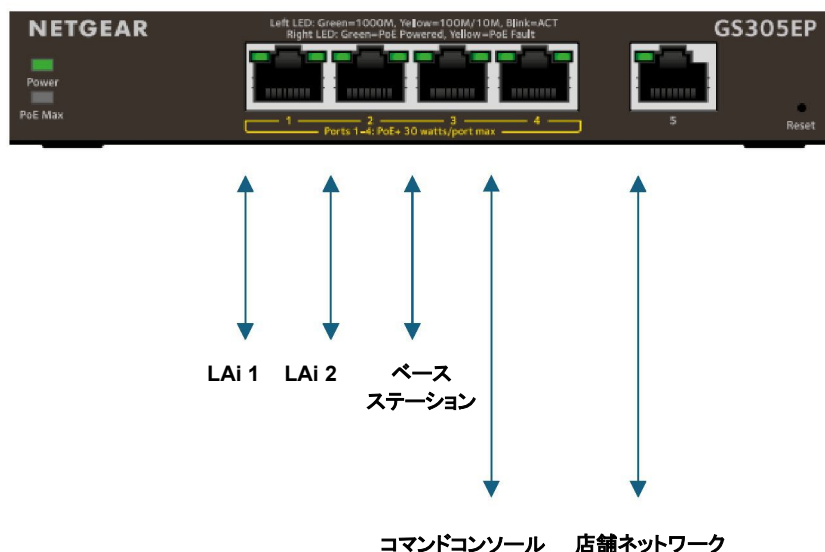
1. スイッチ底面の2つの取り付け穴の位置を確認します。
2. スイッチを取り付けたい壁に印を付け、穴を開けます。取り付け穴の間隔は75mm(2.95インチ)の中心間距離である必要があります。
3. 付属のアンカーを壁に挿入し、No.2プラスドライバーでねじを締め込みます。ねじの頭を壁から約4mm(約0.125インチ)出した状態にしておき、スイッチ底面の穴に引っ掛けて取り付けます。
 - a. 注記: 付属のねじ寸法: 直径6.5mm、長さ16mm
4. 付属の電源アダプターを接続し、電源を入れます。



POEスイッチの接続

以下の手順は、本ガイド内で他の機器がすでに設置されていることを前提とし、システム機器を接続する一例を示しています(複数の接続方法が可能です)。

1. スイッチのPOEポートをLAIに接続します。デュアルレーンの場合は、Port 2を2台目のLAIに接続します。
2. ベースステーションをスイッチの空きポートに接続します。
3. コマンドコンソールをスイッチの空きポートに接続します。
4. 店舗ネットワークからのネットワーク回線をスイッチの空きポートに接続します



ベースステーションの設置



免責事項

- ベースステーションのポートには、PAR Clear以外の外部デバイスを接続しないでください。
- ベースステーションは、設置前に G-Portal にてセットアップしておくことを推奨します。

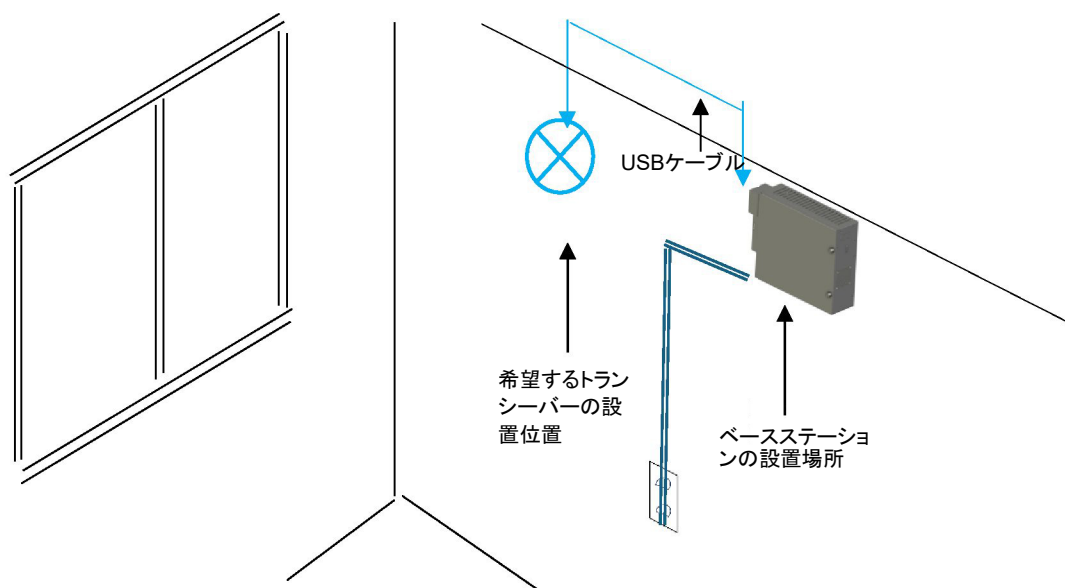
必要な工具と資材

- 各種板金ねじ、または現場に応じた壁用アンカーおよびねじ
- 基本工具セット(ドライバー、ハンドドリル、ドリルビット、巻尺)
- 電線管(必要に応じて)

設置の設計

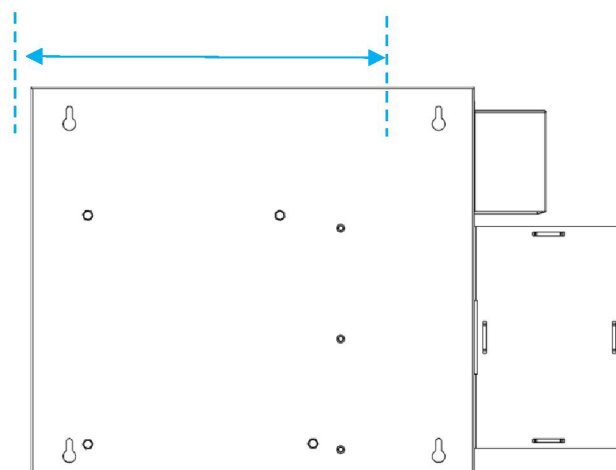
最終的な設置場所を決定する前に現場調査を行う。ベースステーションの希望設置場所(壁面取り付け可能)を選定する。

1. トランシーバーが、付属USBケーブルの長さ範囲内にあること。
2. ベースステーションは、店舗の技術担当者や設置業者がアクセス可能な位置にあること。
3. ベースステーションが電源コンセントまたは承認済みサージプロテクターに届く位置にあること。
4. 現場に合わせて電線管を使用すること(必要に応じて)。

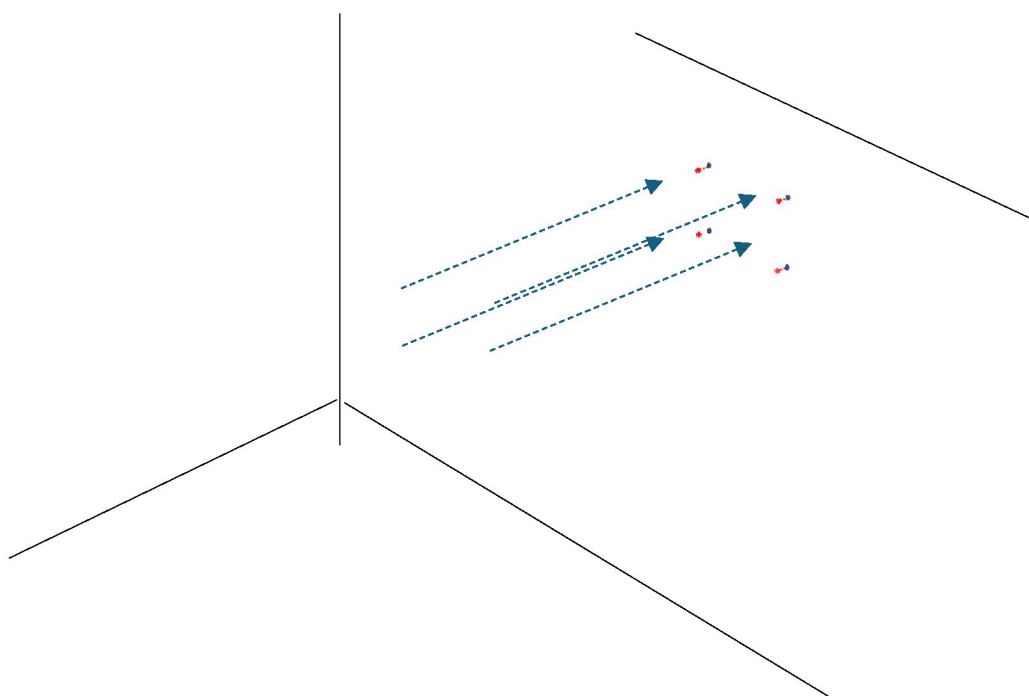


ベースステーションの設置

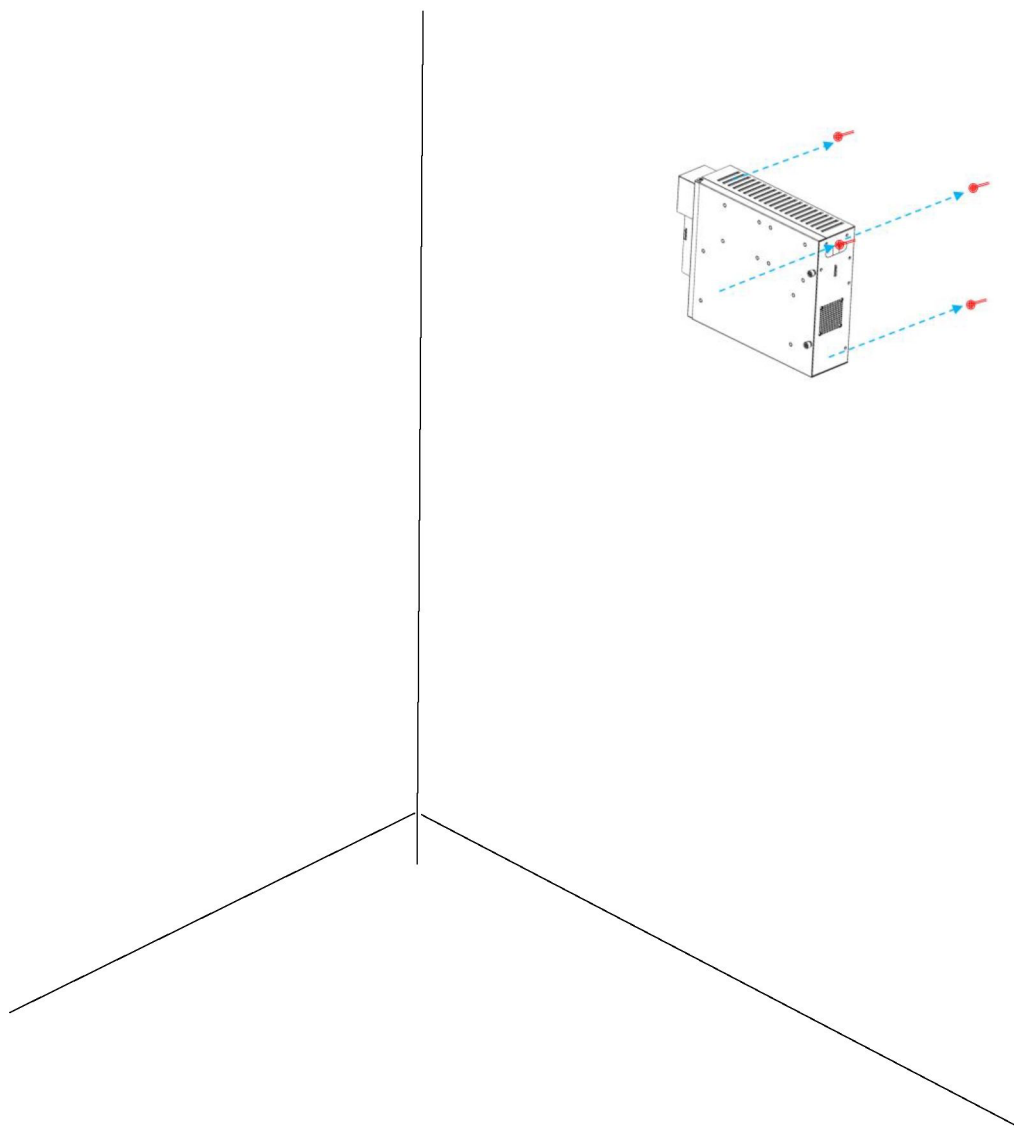
1. ベースステーション筐体の背面から使用する取り付け穴の寸法を測定します(または付属のテンプレートを使用)。



2. 測定した寸法を、ユニットを設置する予定の壁や場所にマーキングします。

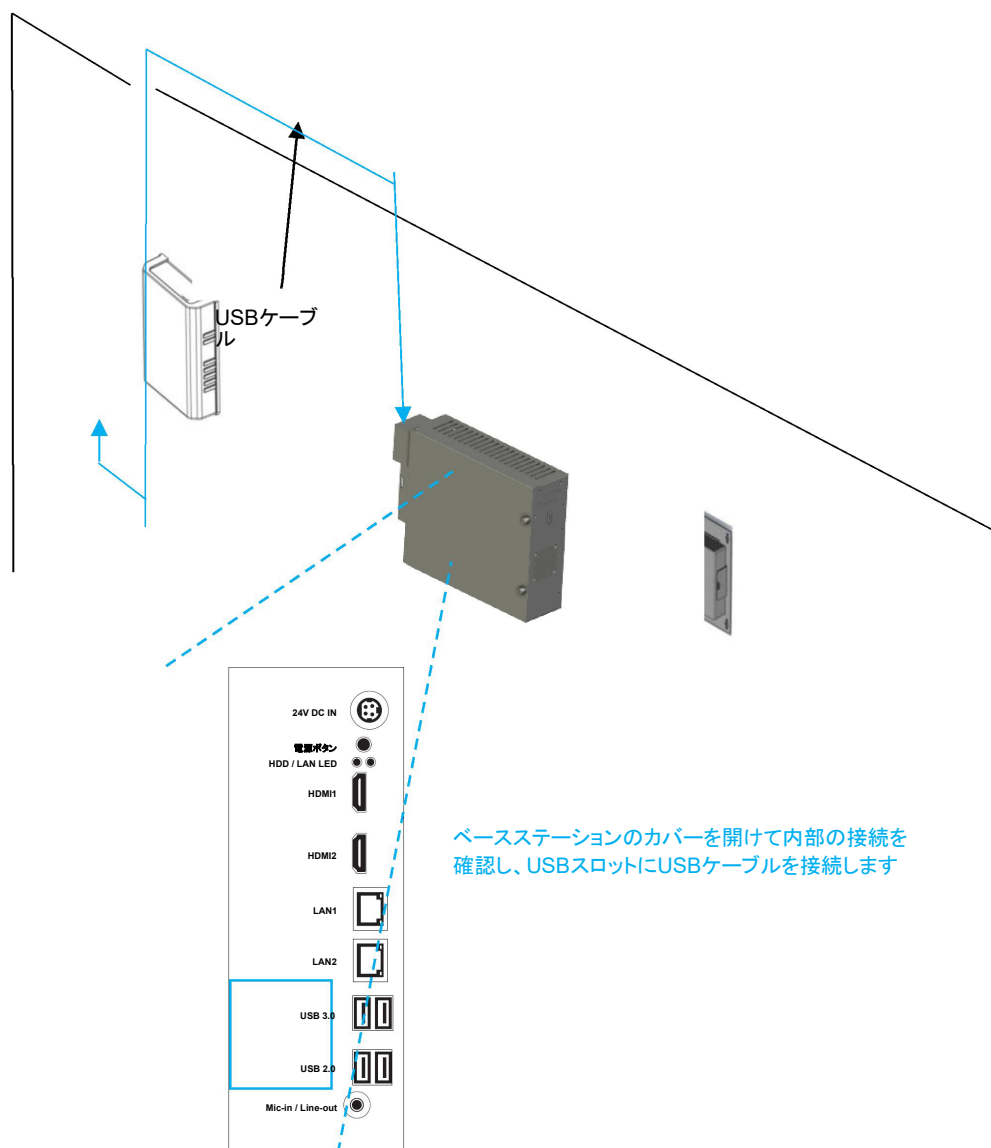


3. マーキングを参照して必要に応じて下穴を開け、ねじやアンカーを使用して設置準備を行います。
4. ベースステーションを掛けて固定し、ねじをしっかりと締め付けます。

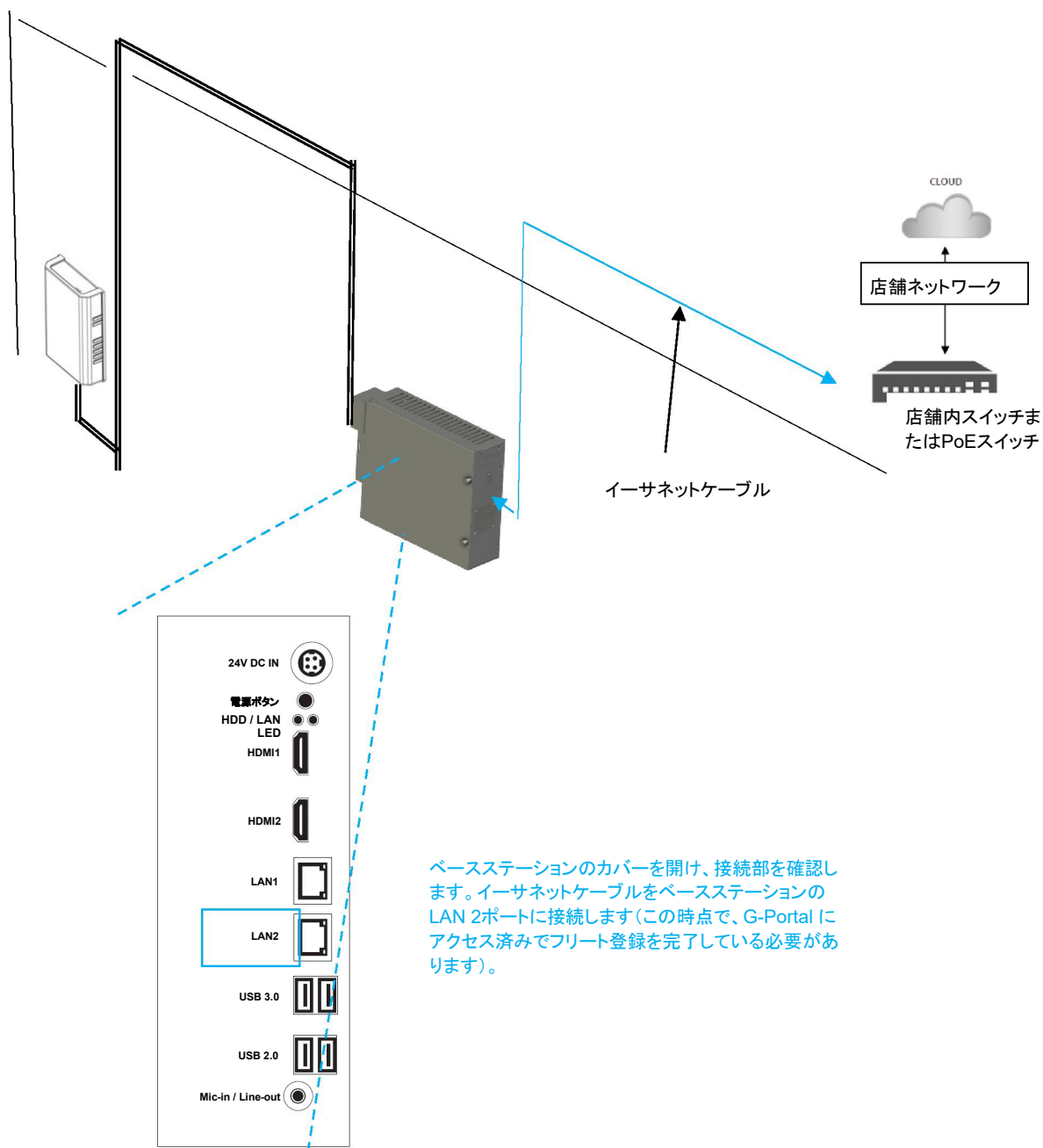


5. USBケーブルをトランシーバーに接続し、もう一方をベースステーションに接続します（ベースステーションの電源はオフにしてください）。

- a. 他のシステム機器（トランシーバー、LAI、DT Portal、PAR CLEAR通信システム）の設置を完了する際は、必要に応じて、それぞれの「インストールガイド／マニュアル」、「クイックスタートガイド／ユーザーマニュアル」を参照してください。

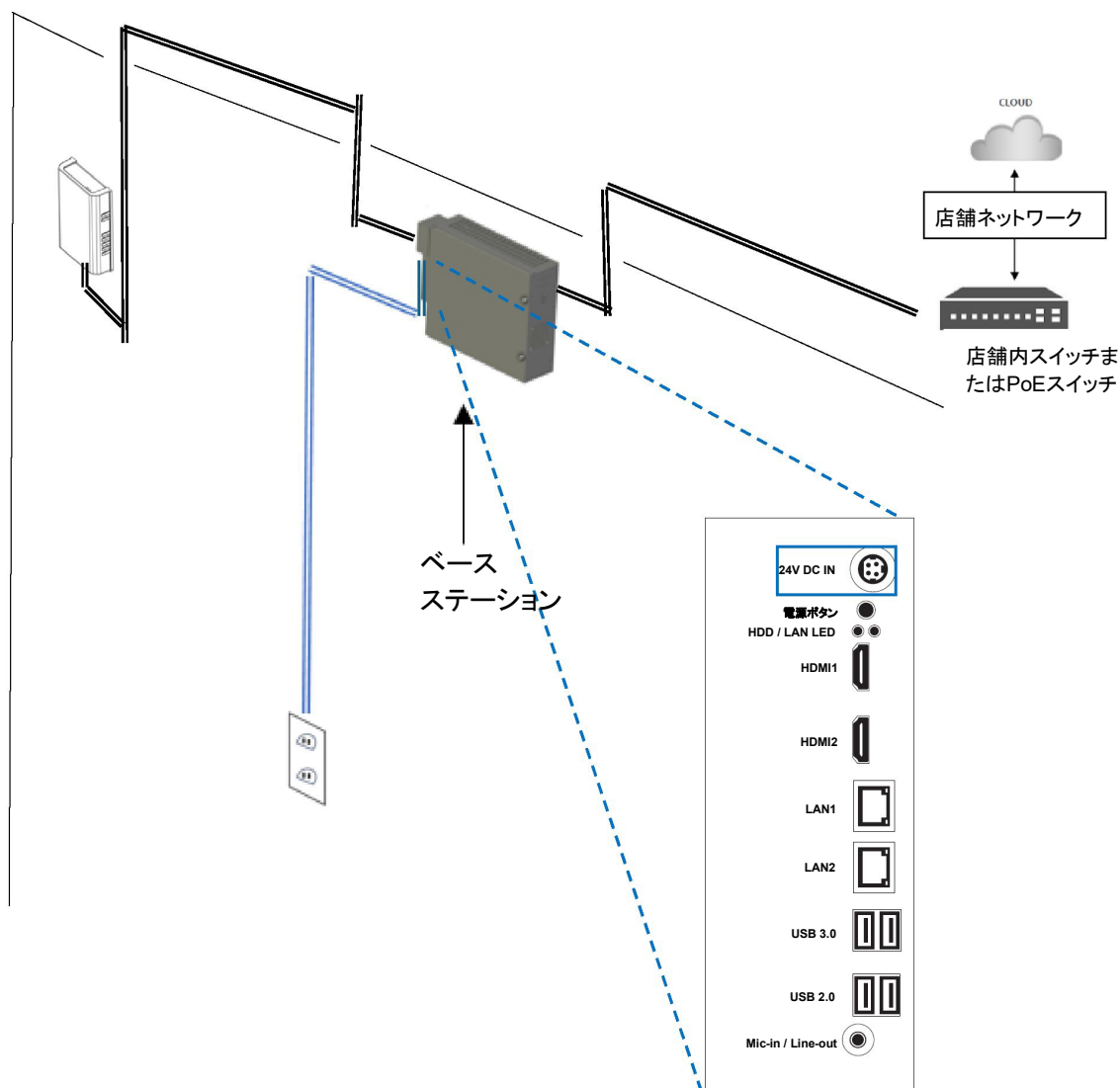


6. ベースステーションがG-Portalで事前に設定されている場合は、LAN 2ポートにイーサネットケーブルを接続します。ベースステーションは、LAI およびコマンドコンソールと同一のLANに接続されている必要があります。ベースステーションのデフォルト静的IPアドレスは、以下の表に示されています（設置時は必ずベースステーションの電源をオフにしてください）。



設定	住所
IP	192.168.99.20
サブネット	255.255.255.0
ゲートウェイ	192.168.99.1
DNS	1.1.1.1, 8.8.8.8

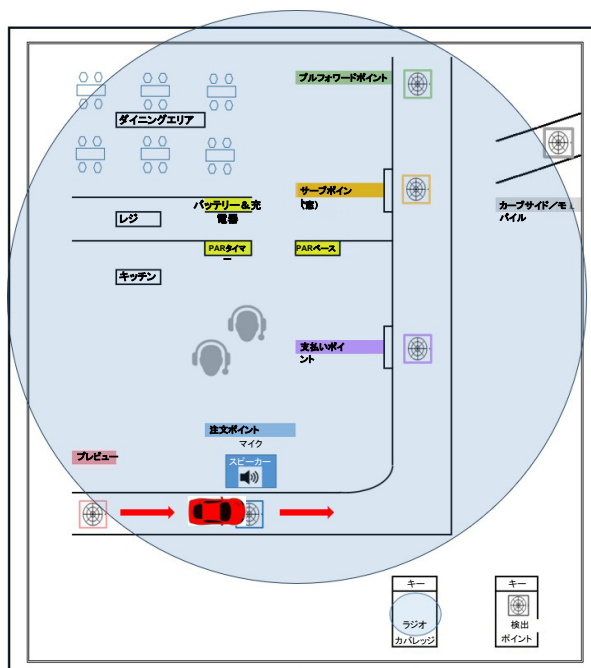
7. 電源を接続し、ベースステーションをオンにします



ベースステーションのテスト

テストは、LAi、デジタルマイク、スピーカー、トランシーバー、DTポータルが正しく設置・設定されていることを前提とします。

1. ヘッドセットを登録し、システムの入出力（音声の送受信）、車両到着アラート、音量調整が正しく動作するかを確認します。実際に車をレーンに入れて通信が明瞭であること、ヘッドセットが正常に機能することを確認してください（必要に応じて、ヘッドセット、LAi、DTポータル用のクイックリファレンスガイドを参照して設定や音量調整を行ってください）。



2. ベースステーションとシステム全体の正常動作を確認したら、配線がすべてハンダ付けされ、保護・絶縁されていること、またすべてのねじが確実に締め付けられていることをチェックしてください。

ベースステーションのセットアップ

ベースステーションのセットアップについては、必要に応じてG-Portalインストールガイドを参照してください。

ベースステーション仕様

物理仕様

パラメーター	仕様または要件
寸法(長さ×幅×奥行)	約26.4cm×30.5cm×8.9cm(10.4インチ×12インチ×3.5インチ)
重量	3.3kg(7.26ポンド)

電気仕様

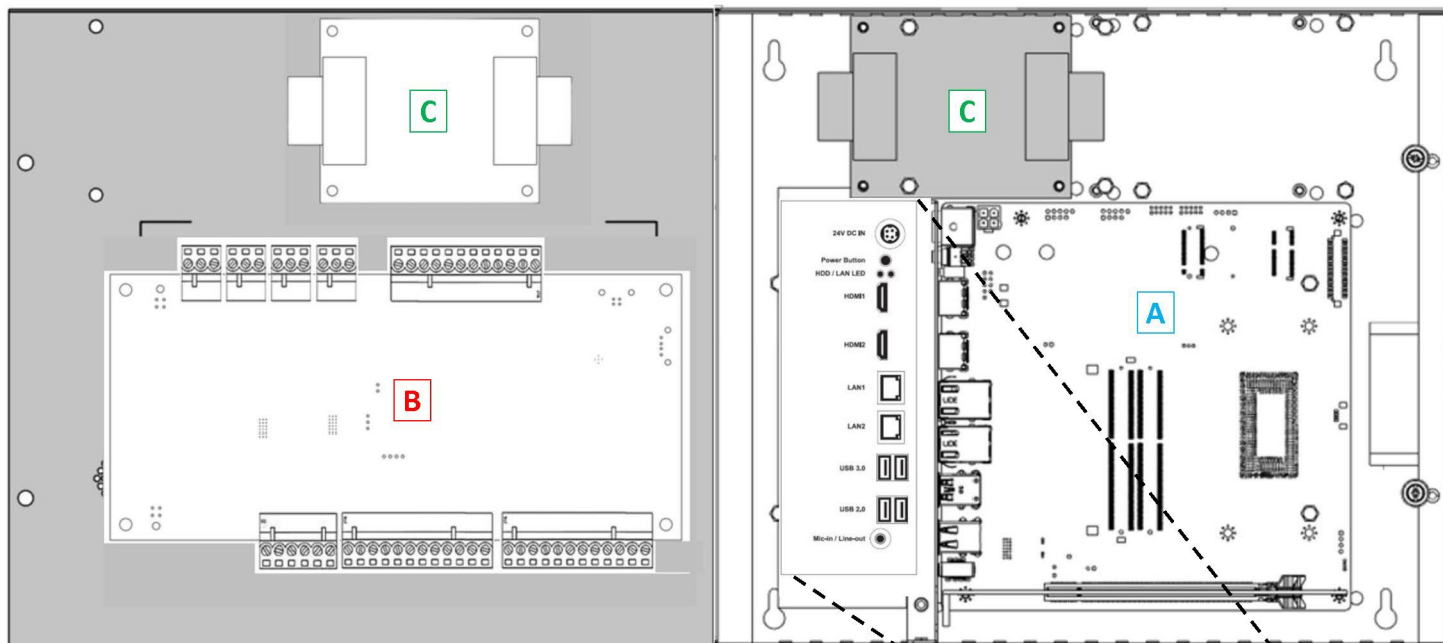
パラメーター	仕様または要件
入力電源	100VAC～240VAC
周波数	50/60Hz

機能仕様

パラメーター	仕様または要件
インジケーター	赤、緑、青色のLED
動作湿度	5%～85%(結露なきこと)
動作温度	0℃～60℃

ベースステーション内部リファレンス

参照記号	説明
A	ベースステーションのマザーボード
B	PTIOボード
C	車両検知ボード (VDB)

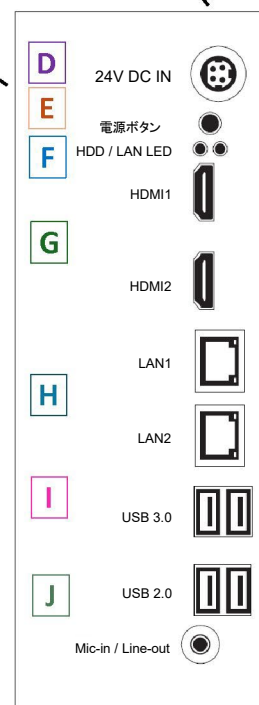


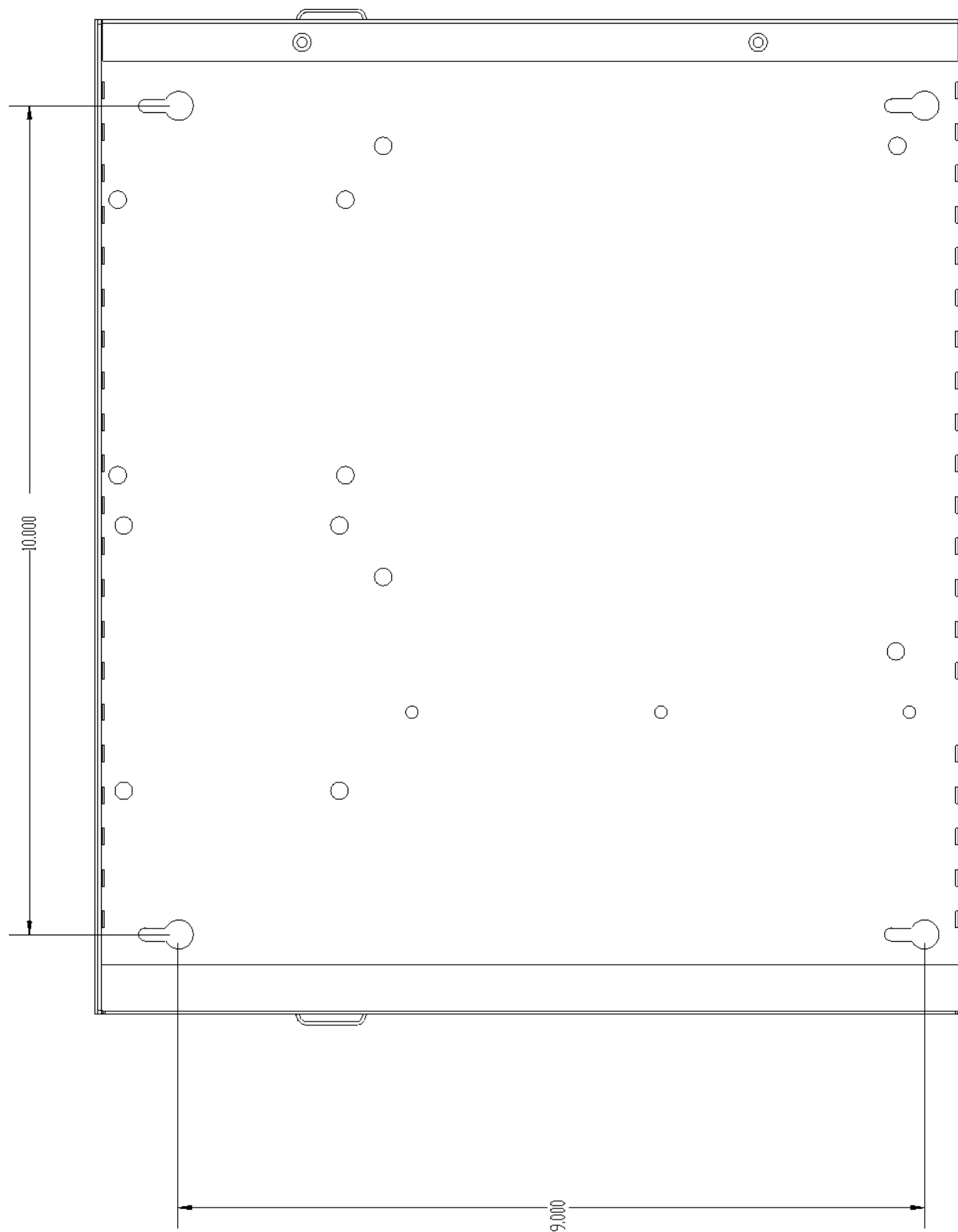
参照記号	説明
D	電源入力 (24VDC)
E	電源ボタン
F	HDD-SSD / LAN LEDインジケータ
G	HDMI出力
H	LANイーサネット接続ポート
I	USB 3.0および2.0ポート
J	マイク入力 / ライン出力ジャック

ベースステーションLEDインジケータ

ベースステーションには、8つのLEDインジケータがあります。

- 電源スイッチLED (白) : システムがオンのとき点灯
- HDD LED (赤) : mSATAドライブへのアクセス中に点灯
- LAN LED (緑) : ネットワークアクセス中に点灯
- LAN2ポートLED (緑または橙) : ネットワーク接続速度を表示 (緑=高速、橙=低速)
- PTIOボードのLED。橙色LED×3: ボードに電源が供給されていることを示します。青色LED×1: ヘッドセットが通話中であることを示します。





レーンオーディオ インターフェース (LAI) の設置



必要な工具と資材*

*デジタルマイク、スピーカー、ベースステーション、トランシーバー、PoE、ネットワークケーブルがすでに設置されていることを前提としています。

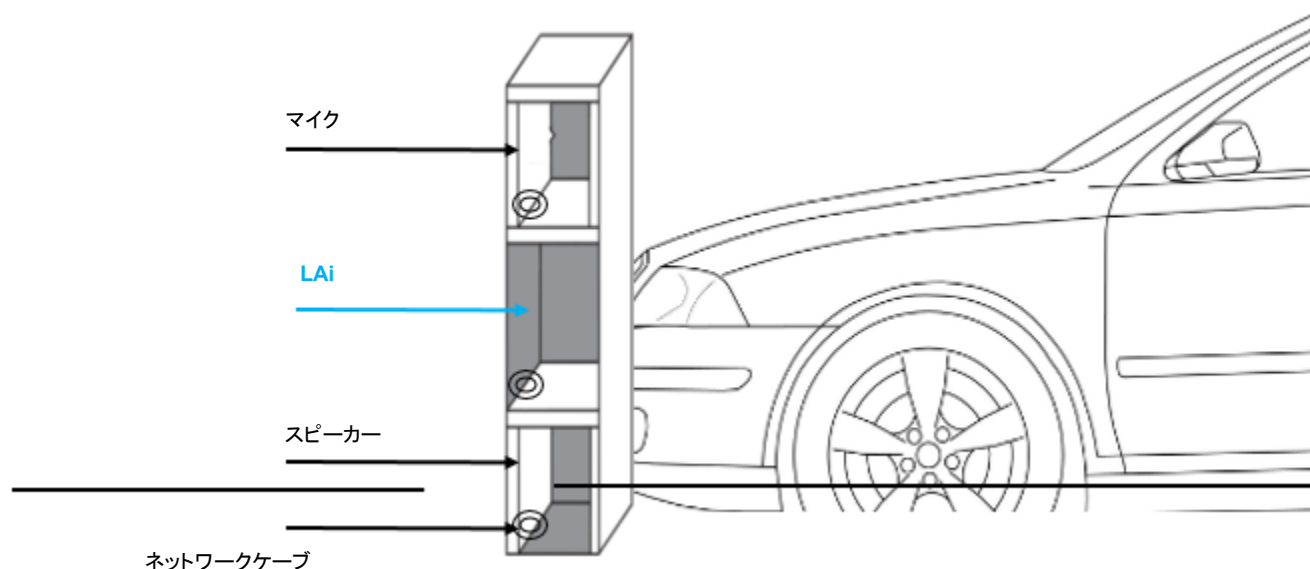
- 基本工具類: ドライバー、結束バンド、ハンドドリル (必要に応じて)
- 取り付けテープ (推奨: Scotch-Mount Extreme 両面テープ)



設置の設計

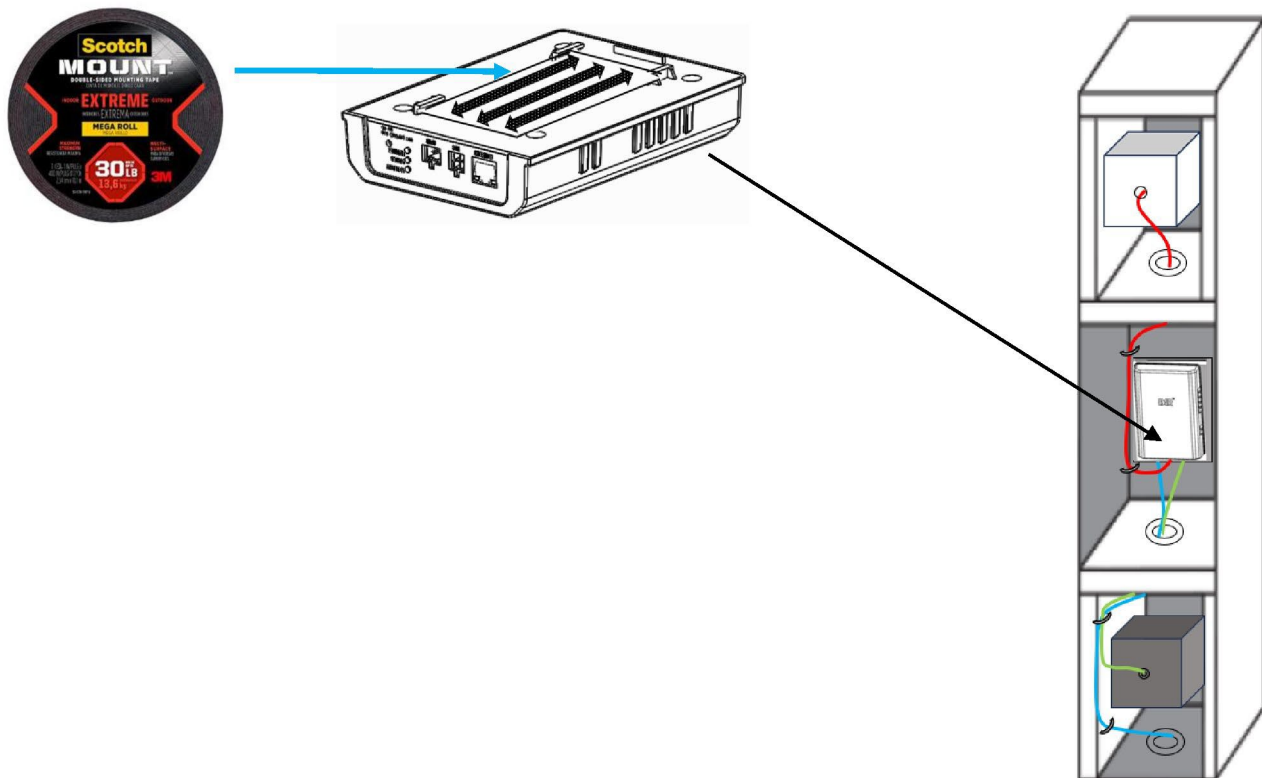
LAIは、デジタルマイクとスピーカーが設置されているスピーカーポスト内に設置してください。以下のケーブルが接続可能な位置を選定してください。

- マイク
- スピーカー
- ネットワーク



LAI の取り付け

1. Scotch-Mount Extreme両面テープを3枚切り出し、LAIレーンハードウェアのスライドプレート裏面に貼り付けます。
2. ポスト内部で適切な取り付け位置を探します。LAIは必ずコネクタ部を下向きにして取り付け、液体の侵入を防いでください。



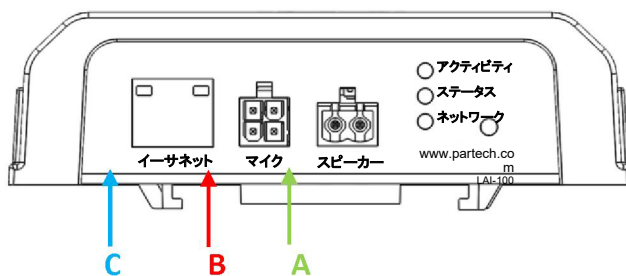
3. 次の接続を行います（必要に応じて結束バンドでケーブルを固定してください）。**（複数のLAIを使用するシステムでは、ポータルでの設定時に正しいレーン割り当てを行えるよう、各LAIのMAC IDを必ず書き留めておいてください。これにより、設定時の作業を迅速に進めることができます）**

A. メニースピーカーの緑色のコネクタを「SPKR」ジャックに接続します

B. デジタルマイクの白いコネクタを「MIC」ジャックに接続します

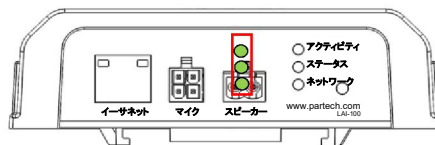
C. PoEネットワークケーブルを「ETHERNET」接続ジャックに接続します

（LAI接続図を参照）



LAI接続

1. ベースステーション、トランシーバー、PoEの電源がすべて入っていることを確認します。(本ガイドに記載のその他の機器がすでに設置済みであることを前提としています)
2. LAIがイーサネット／ネットワークケーブル経由で給電されると、すべてのLEDが緑色に点灯します。

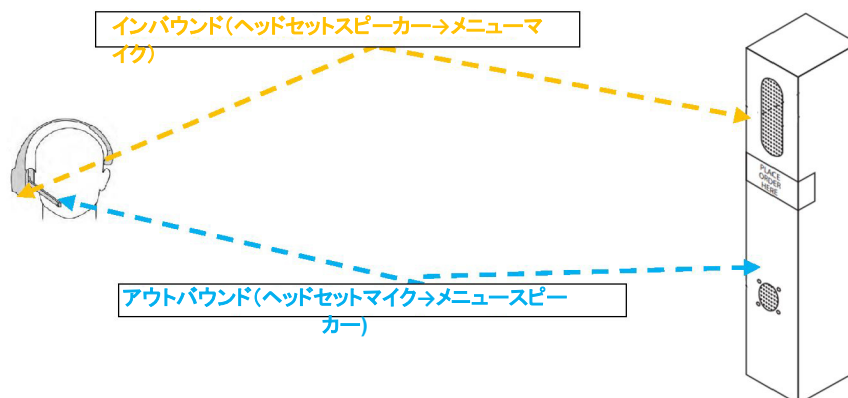


3. **DHCPネットワーク構成:** 提供されたリンクと認証情報を使用して、ウェブページ／ポータルにログインします。LAIが自動的に検出されるはずですが、接続を確認するため、左パネルの[**Devices (デバイス)**]に移動し、ベースステーションを選択します。[**Actions (アクション)**]の(...)アイコンをクリックし、[**Settings (設定)**]を選択します。[**Volume & Devices (音量 & デバイス)**] > [**Connected Devices (接続済みのデバイス)**]セクションの順に進みます。[**LAIs**]フィールドに「Connected (接続済み)」および「Healthy (正常)」と表示されていることを確認します。[**Actions (アクション)**]の(...)アイコンから、インストール時に控えておいたMAC IDを参照し、正しいレーン番号にLAIを割り当てます。複数レーンのドライブスルー設置時に便利です。[**Apply Changes (変更を適用)**]をクリックします
4. **静的ネットワーク構成 (Windows 11 の例):**
 - a. 店舗の技術担当チームから、必要なIPアドレス、ゲートウェイ、DNSサーバーを入手します。
 - b. LAIと同じPoEスイッチに接続したコンピューターを使用します。
 - c. 「Advanced IP Scanner」などのIPスキャナツールを使用し、LAIの現在のIPアドレスを取得します。LAIの名前は通常、「**LAI**」または「**beaglebone**」と表示されます。
 - d. 「Windows Powershell」を開き、LAIの現在のIPアドレスを指定して、以下のコマンドでSSH接続します。
 - i. `ssh debian@192.168.1.xxx` (xxxはスキャンなどで取得したLAIのIPアドレスに置き換えます)
 - ii. 求められた場合は、PARから提供されたパスワードを入力し、「yes (はい)」と入力してください。
 - iii. 新しい静的ネットワーク情報を設定するには、以下のコマンドを実行します (必要に応じて、先ほどと同じパスワードを使用します)。`sudo /usr/bin/set_ip_address.sh -i 192.168.1.XXX -s 255.255.255.0 -g 192.168.1.1 -d 8.8.8.8 -e 1.1.1.1 -c eth0`
 - iv. 成功すると、次のメッセージが表示されます。「Network configuration for eth0 has been updated. (eth0のネットワーク構成が更新されました。)」
 - v. 設定が正しく反映されたことを確認するには、次のコマンドを入力します。`sudo /usr/bin/get_ip_address.sh -c eth0 -i g d`
 - e. 提供されたリンクと認証情報を使用して、ウェブページ／ポータルにログインします。接続を確認するため、左パネルの[**Devices (デバイス)**]に移動し、ベースステーションを選択します。[**Actions (アクション)**]の(...)アイコンをクリックし、[**Settings (設定)**]を選択します。[**Volume & Devices (音量 & デバイス)**] > [**Connected Devices (接続済みのデバイス)**]セクションの順に進みます。[**LAIs**]フィールドに「Connected (接続済み)」および「Healthy

(正常)」と表示されていることを確認します。[**Actions (アクション)**](...)アイコンから、インストール時に控えておいたMAC IDを参照し、正しいレーン番号にLAIを割り当てます。複数レーンのドライブスルー設置時に便利です。[**Apply Changes (変更を適用)**]をクリックします。

LAIのテスト

- 登録済みのヘッドセットを使用し、LAIの入音と出音を確認します。ゲインは、DTポータルを使用して設置環境や現場に合わせて調整してください。テストは2人で行ってください(必要に応じて)。(ヘッドセット、トランシーバー、ベースステーションのクイックリファレンスガイド、または「PAR Clear System 完全インストールマニュアル」も併せて参照してください)



- スピーカーポスト側でオーディオ出力を調整するには、[**Volume & Devices (音量 & デバイス)**] > [**Volume Settings (音量設定)**] > [**Lane Volume (レーン音量)**]の順に選択します。必要に応じて、レーンごとに[**Day Time Speaker Volume (昼間のスピーカー音量)**]、[**Night Time Speaker Volume (夜間のスピーカー音量)**]、[**Greeter Message Relative Volume (案内メッセージの相対音量)**]を調整してください。完了したら、[**Apply Changes (変更を適用)**]をクリックします。
 - 全ヘッドセット共通の音声入力(インバウンド)を調整するには、必要に応じて[**Headset Volume (ヘッドセットの音量)**]タブを開き、[**Headset Speaker Baseline Volume (ヘッドセットスピーカーのベースライン音量)**]を設定してください。設定が完了したら、[**Apply Changes (変更を適用)**]をクリックします。
- 音量・音質が適切であることを確認後、スピーカーポストにカバーを取り付け、設置を完了してください。

LAI仕様

物理仕様

パラメーター	仕様または要件
寸法(長さ×幅×奥行)	約16.8cm×12.4cm×3.5cm (6 5/8インチ×4 7/8インチ×1 3/8インチ)
重量	0.3kg

電気仕様

パラメーター	仕様または要件
入力電源	PoE 802.3af、15.4W電源
データ接続	イーサネット10MB/100MB RJ45 物理層を使用したAudio over IP接続
オーディオ出力	5W定格出力時 95dB SPL(リニア加重)、 [1m] 1kHz サイン波

機能仕様

パラメーター	仕様または要件
インジケーター	赤、緑、青色のLED
動作高度	2000m以下
動作温度	0℃～60℃

トランシーバーの設置



必要な工具と資材

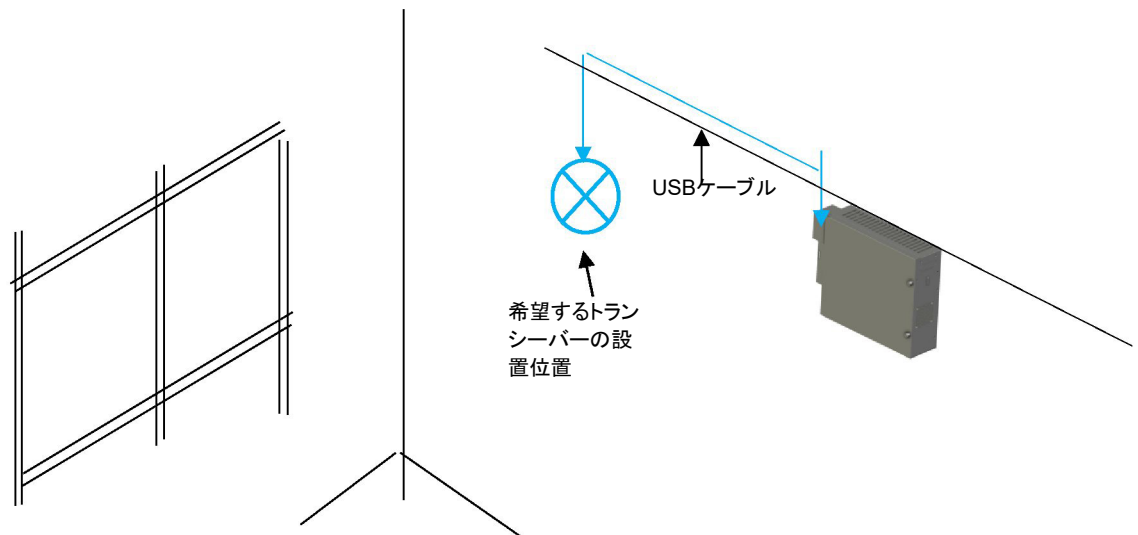
- 各種板金ねじ、または現場に応じた壁用アンカーおよびねじ
- 基本工具セット(ドライバー、ハンドドリル、ドリルビットなど)
- 電線管(必要に応じて)

設置の設計

トランシーバーは、現場において必要な通信範囲とカバレージを確保できる場所に設置してください。必要に応じてサイト調査を行い、設置位置を確定する前に送信範囲をテストしてください。

注記:WMTの取り付け位置は、人体から少なくとも20cm以上離すこと。

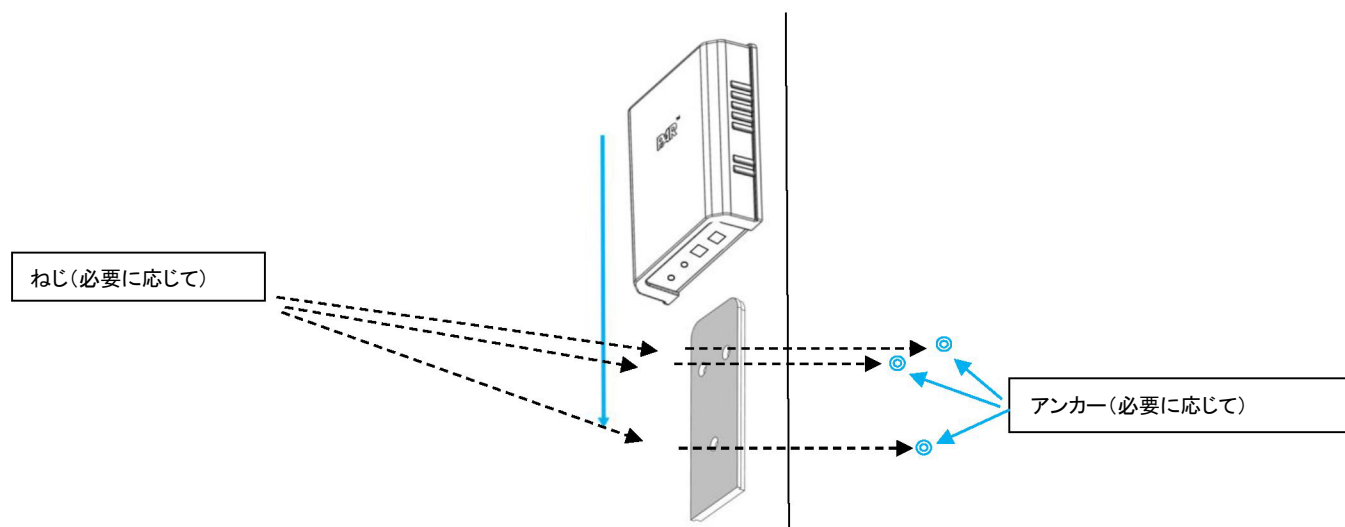
1. トランシーバーの設置場所を決める際の確認事項:
 - a. USBケーブルがベースステーションまで届く長さを確保すること
 - b. 現場に合わせて電線管を使用すること(必要に応じて)



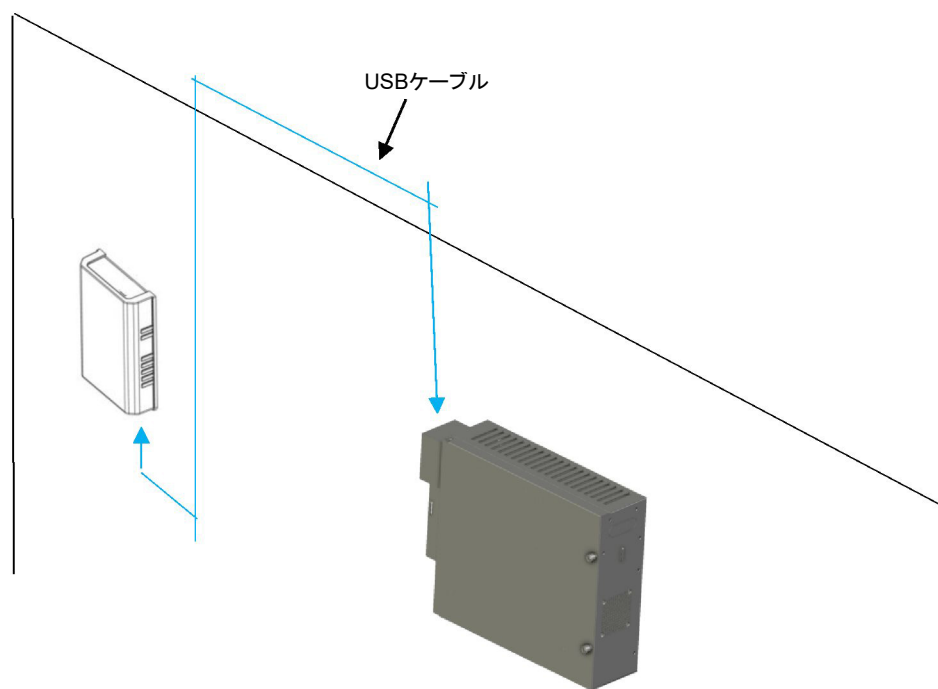
トランシーバーの設置

1. 通信範囲をテストした後、トランシーバーの取り付けプレートをねじまたはアンカーで固定します(この段階ではねじを完全に締め付けないようにしてください)。

2. トランシーバー本体を取り付けプレートにスライドさせて装着します



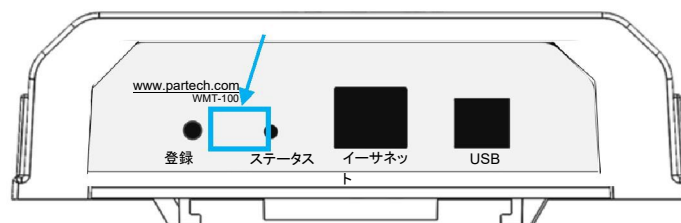
3. USBケーブルをトランシーバーに接続し、USBケーブルのもう一方の端をベースステーションに接続します(ベースステーションの電源はオフになっていることを確認してください)



トランシーバーの接続

1. ベースステーションの電源を入れます。
2. トランシーバーのLEDの状態を確認します。工場出荷時、またはヘッドセットが未登録の状態では**赤色**が点滅します。ヘッドセット登録後は、**緑色**が点滅し、スタンバイモードになります。ヘッドセットとトラ

ンシーバーが通信中は**緑色が点灯**します。

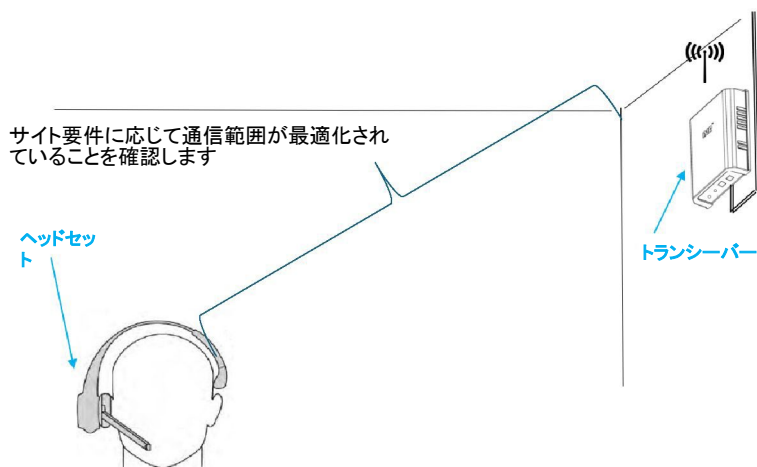


3. 提供されたリンクと認証情報を使用して、ウェブページ／ポータルにログインします。トランシーバーが自動的に検出されるはずです。接続を確認するため、左パネルの[**Devices (デバイス)**]に移動し、ベースステーションを選択します。[**Actions (アクション)**]の(...)アイコンをクリックし、[**Settings (設定)**]を選択します。[**Volume & Devices (音量 & デバイス)**] > [**Connected Devices (接続済みのデバイス)**]セクションの順に進みます。[**Transceiver (トランシーバー)**]で「**Connected (接続済み)**」と表示されていることを確認します。

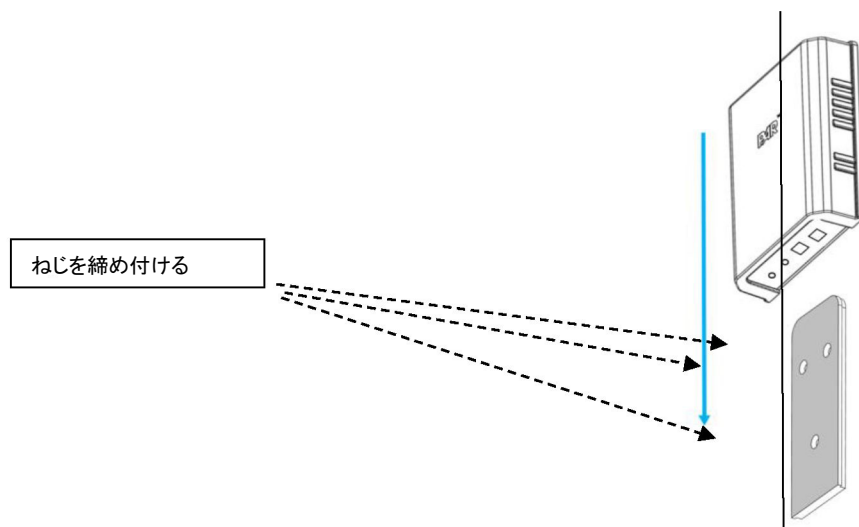
トランシーバーのテスト

1. 登録済みのヘッドセットを使用して、システムの通信範囲をテストします。(必要に応じて、ヘッドセット、LAI、ベースステーション用の他のクイックリファレンスガイドを参照してください)

重要事項: ベースステーション、LAI、スピーカー、マイクロフォンが正しく設置されていることを確認します。



2. システムのオーディオおよび通信範囲が良好であれば、取り付けプレートのねじを本締めします。トランシーバーをスライドさせて取り外し、ねじをしっかりと締めた後、再度スライドさせて装着します。良好でない場合は、上記の手順を繰り返します。



トランシーバー仕様

物理仕様

パラメーター	仕様または要件
寸法(長さ×幅×奥行)	約16.8cm×12.4cm×3.5cm (6 5/8インチ×4 7/8インチ×1 3/8インチ)
重量	0.3kg

電気仕様

パラメーター	仕様または要件
入力電源	USB Type B、5VDC
無線周波数	DECT
最大出力	地域のDECT

機能仕様

パラメーター	仕様または要件
インジケーター	赤、緑、青色のLED
動作高度	2000m以下
動作温度	0℃～60℃

車両検出ボード (VDB) の設置

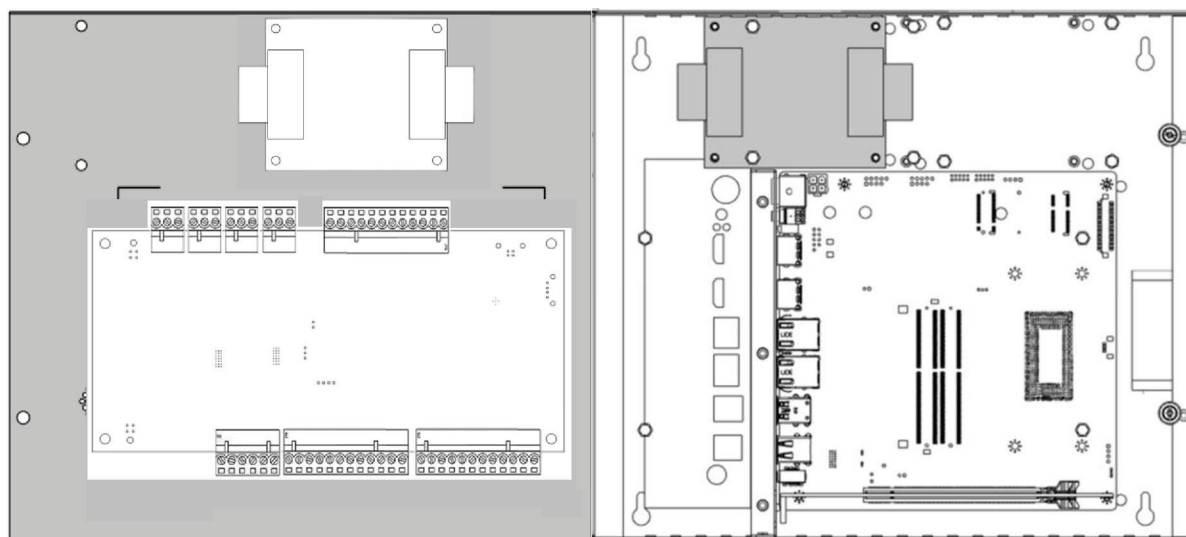
必要な工具と資材

- ワイヤーストリッパー (必要に応じて)
- プラス#2、マイナス#3のミリメートルドライバー
- 付属キット (22ゲージ電線および#6-32×1/4インチねじ)

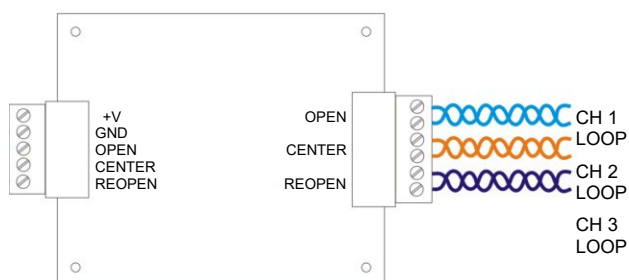
設置

重要事項: 取り付け前に必ずベースステーションの電源を切ってください。

1. ベースステーションのカバーを開け、VDB基板を取り付けます。
 - a. PAR Clearシステムは最大2枚のVDBを搭載できます。
 - b. 各VDBは最大3ループを接続でき、必要に応じて合計6ループまで対応可能です。
2. 付属のねじを使用して、VDBをベースステーション内のAまたはBの位置に固定します。



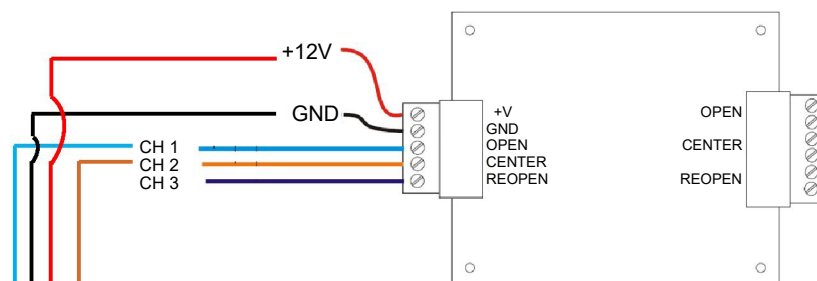
3. ループワイヤーは、VDB右側の6ピンコネクタに下記の図表を参照して接続します。



ピン番号	名称 (一般名称)	接続
1	OPEN	CH 1 LOOP
2	OPEN	CH 1 LOOP
3	CENTER	CH 2 LOOP
4	CENTER	CH 2 LOOP
5	REOPEN	CH 3 LOOP
6	REOPEN	CH 3 LOOP

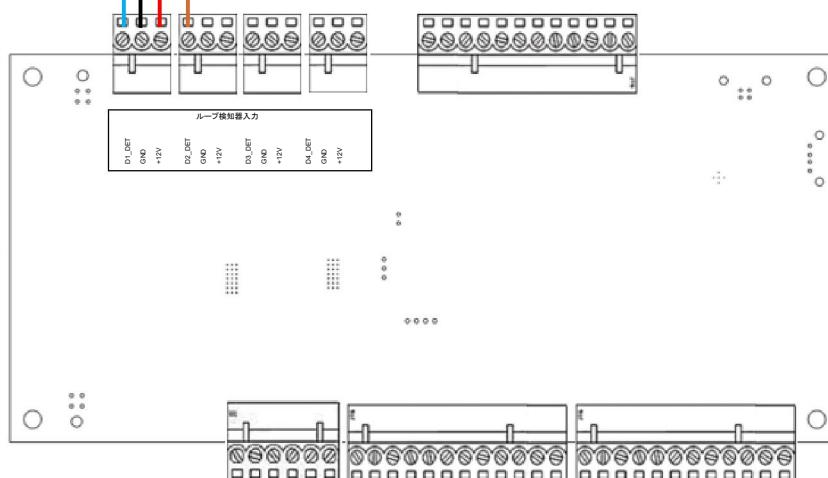
4. VDB左側の5ピンコネクタから、+12V電源、GND、必要なループチャンネルをPTIOボードに接続します。デュアルレンドライブスルーの場合のみ、下記の図表を参照してCH2を使用してください。

ピン番号	名称(一般名称)	接続
1	+ V	+ 12V
2	GND	GND
3	OPEN (CH 1)	CH 1 信号
4	CENTER (CH 2)	CH 2 信号
5	REOPEN (CH3)	CH 3 信号



J701- ピン番号	名称	VDBへの接続
1	D1_DET	OPEN (CH 1)
2	GND	GND
3	+ 12V	+ V

J702- ピン番号	名称	VDBへの接続
1	D2_DET	CENTER (CH 2)
2	GND	NC
3	+ 12V	NC

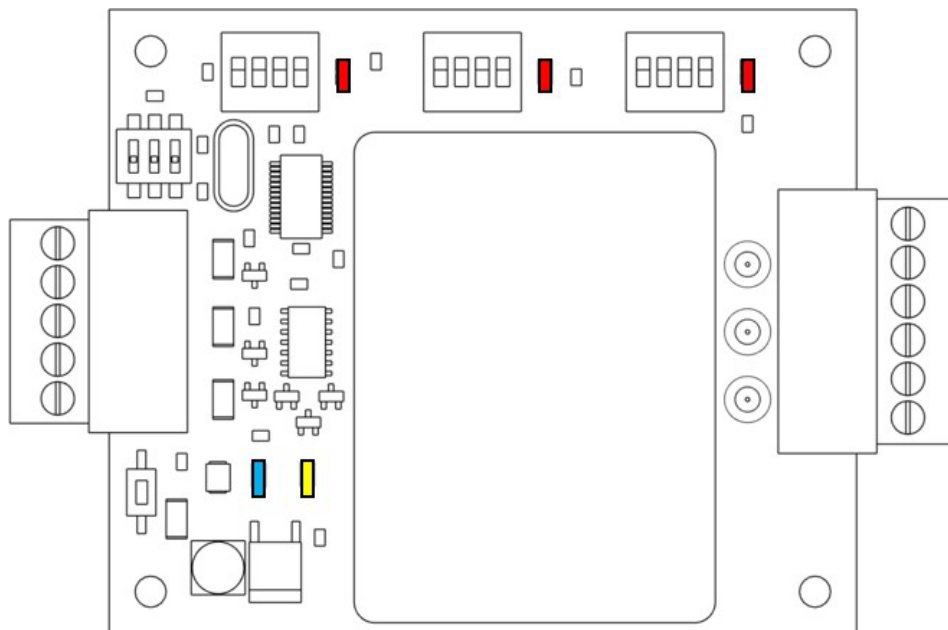


車両ループ検出器のテスト

- すべての接続が正しく、緩みがないことを確認します。
- ベースステーションの電源を投入します。

下記の図表を参照して、テストを実施してください。

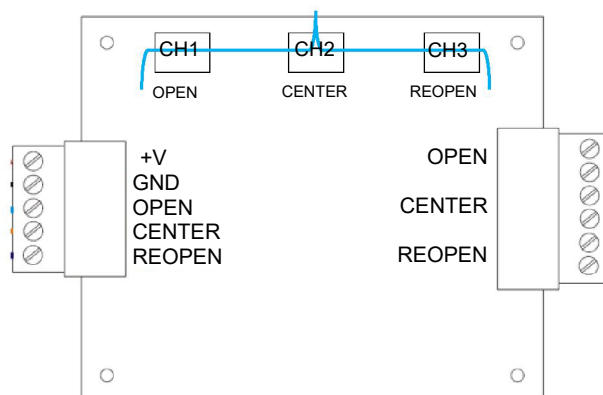
- 正常に動作している場合、POWERインジケータは**青色のLED**が点灯したままになります。
- 赤色のLED**は、対象ループの上に車両があると点灯します。使用していないループチャンネルの赤色のLEDは、点滅を続けますのでご注意ください
- 黄色のLED**(故障インジケータ)は、いずれかのループが未使用の場合に点灯し、3つのループチャンネルすべてが使用されているときにのみ消灯します。



機能	LEDの カラー	説明
電力	青	正常に電源が供給されている場合は点灯
検出	赤色	- 点灯＝検出中 1回点滅して一時停止＝ループの開放回路 2回点滅して一時停止＝ループの短絡
故障	黄色	電流の障害発生時に点灯

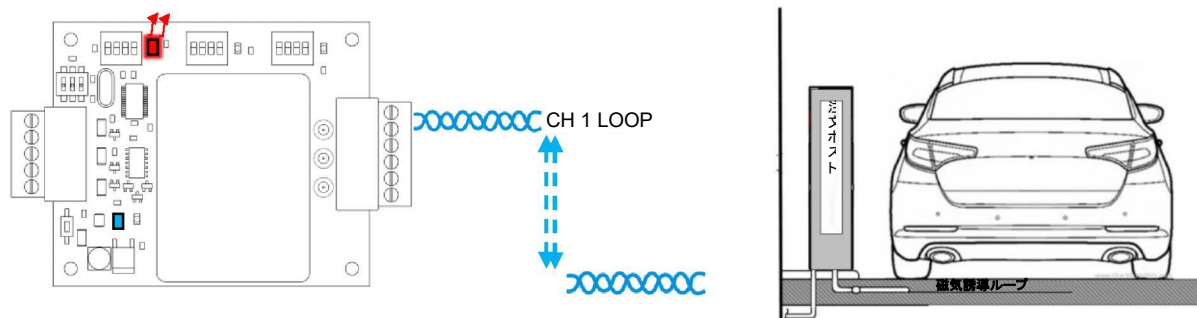
D. 周波数の初期設定は「High(高)」、感度の初期設定は「Medium(中)」です。必要に応じて調整できます。各DIPスイッチのセットは、3つのループチャンネルそれぞれに対応します。

(FO) SW1	(FO) SW2	周波数
ON	ON	LOW
OFF	ON	MEDIUM LOW
ON	OFF	MEDIUM HIGH
OFF	OFF	HIGH
(SO) SW3	(SO) SW4	感度
ON	ON	HIGH
OFF	ON	MEDIUM
ON	OFF	LOW
OFF	OFF	CHANNEL OFF



本ガイドで言及されていないその他のDIPスイッチは、既定のオフのままにしてください。

3. 車両をループ上に走行させ、対応するループチャンネルのLEDが赤色に点灯し、車両が離れると消灯することを確認してください。この手順を3回繰り返し、ループおよび検知器が正常に動作していることを確認します。システムで有効になっている場合は、ヘッドセットがアラートを発し、車両が注文ポイントに到着したことを通知します。



ベースステーションのカバーを閉じる

車両検知テストを実施し、正常に動作することを確認したら、ベースステーションのカバーを閉じ、つまみねじをしっかりと締め付けます。その際、配線が整然と収納され、必要に応じて結束バンドで固定されていることを確認してください。



車両検出ボードの仕様

物理仕様

パラメーター	仕様または要件
寸法 (長さ×幅×奥行)	約7.5cm×9.0cm×1.0cm (3インチ×3 9/16インチ×3/8インチ)

電気仕様

パラメーター	仕様または要件
入力電源	10～30VDC
インダクタンス範囲	20uF～1500uH
出力定格	ソリッドステート検出、最大電流シンク 30mA。出力は過電圧または極性逆接続から保護されています。

機能仕様

パラメーター	仕様または要件
インジケーター	赤、黄、青のLED
動作温度範囲	約-34℃～+82℃ (30°F～+180°F)

コマンドコンソールの設置



必要な工具と資材

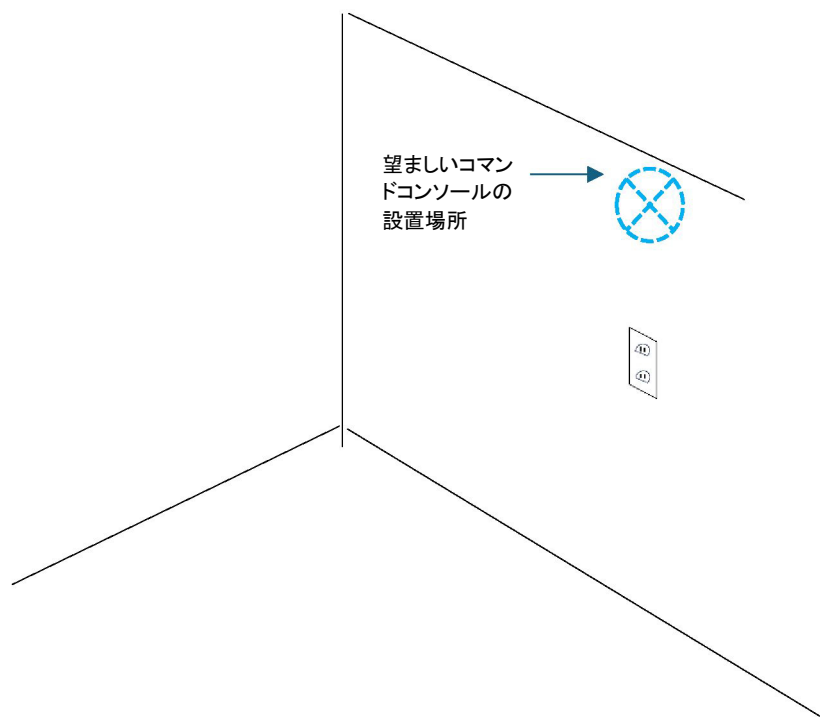
- 各種板金ねじ、および／または現場に応じた壁用アンカーおよびねじ
- 基本工具セット(ドライバー、ハンドドリル、ドリルビットなど)
- 電線管(必要に応じて)

設置の設計

コマンドコンソールは、現場のオペレーターが操作しやすい場所に設置してください。設置場所を確定する前に、必要に応じて現場を確認し、サイトマネージャーと相談してください。

コマンドコンソールの設置場所を選定する際の留意点：

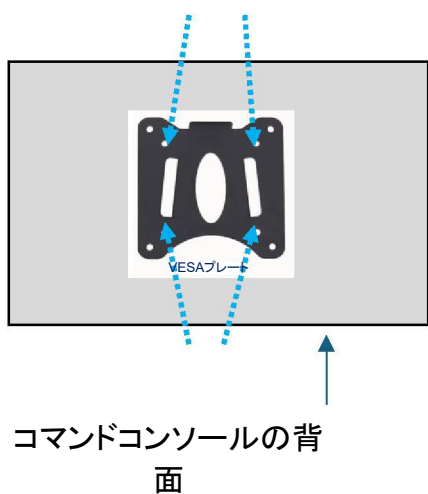
- 近くにコンセントがあり、電源を確保できること
- コンソールを壁掛けにするか、または台座に設置するかを決定すること
- 現場に合わせて電線管を使用すること(必要に応じて)
- ネットワークケーブルが利用可能でアクセスしやすいこと

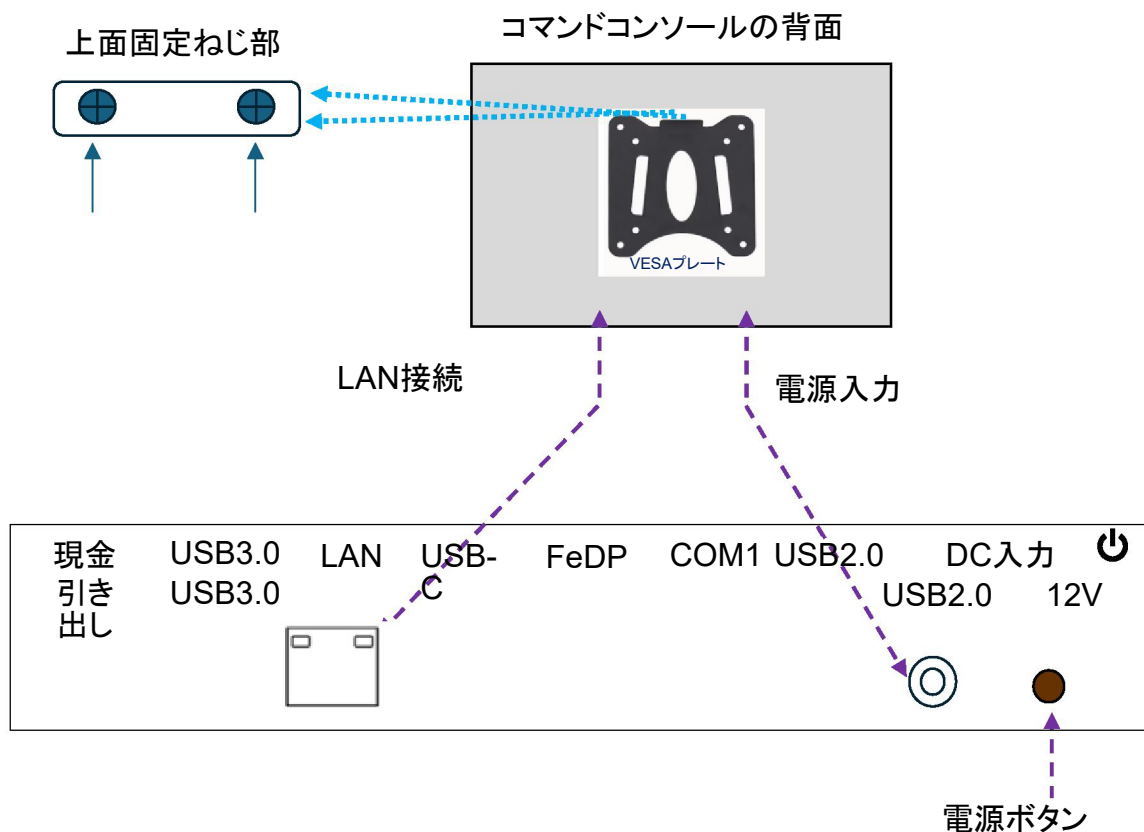


コマンドコンソールの設置と接続

壁掛け設置

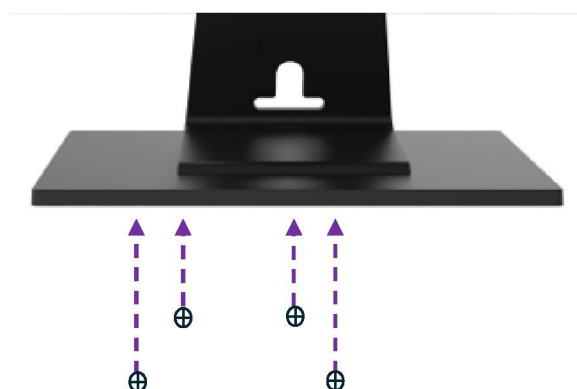
1. コンソール背面から台座用のブラケットを取り外します。
2. 付属の4本のねじを使って、VESAプレートのコマンドコンソールに取り付けます。
3. 付属の2本のねじを使って、ウォールプレートを壁に取り付けます。必要に応じて、適切な種類のねじおよび／またはアンカーを使用してください。
4. コンソールのVESAプレートを壁取り付けプレートにスライドさせて装着し、ねじで固定します。
5. LANコネクタにネットワークケーブルを接続します。
6. 電源ジャックを差し込み、アダプターを壁のコンセントに接続します。
7. コマンドコンソールの電源を入れます。





台座の設置

1. 台座マウントベースをねじで固定します。
2. コマンドコンソール背面に台座を取り付けます。
3. LANコネクタにネットワークケーブルを接続します。
4. 電源ジャックを差し込み、アダプターを壁のコンセントに接続します。
5. コマンドコンソールの電源を入れます。





コマンドコンソールへのログイン

コマンドコンソールの電源投入後、約1分以内に画面が起動して利用可能になります。コマンドコンソールへのログイン方法:

1. [Login(ログイン)]ボタンをクリックし、デフォルトパスワード「12345」を入力します。
2. ログイン後、トランシーバー／ベースステーション／LAiの再起動、ヘッドセットの追加、ヘッドセットおよび注文ポイントの音量調整を行うことができます。

コマンドコンソールへの仕様

物理仕様

パラメーター	仕様または要件
寸法(長さ×幅×奥行)	289×275×193mm
重量	2.69kg / 5.94ポンド(台座含む) 0.95kg / 2.1ポンド(台座なし)

電気仕様

パラメーター	仕様または要件
入力電源	12V DC、36W、3A
LCDサイズ、解像度	11.6インチ 16:9 HD、1920×1080
タッチスクリーンのタイプ、表面、耐久性	True-Flat PCAP マルチタッチ、低反射、7H 硬度

機能仕様

パラメーター	仕様または要件
インジケーター	RJ45イーサネットコネクタ上のネットワーク およびアクティビティ
保管温度	-20°C～60°C (-4°F～140°F)
動作温度	0°C～35°C (32°F～95°F)

バッテリー充電器の設置

必要な工具と資材

- 各種板金ねじ、または現場に応じた壁用アンカーおよびねじ
- 基本工具セット(ドライバー、ハンドドリル、ドリルビットなど)

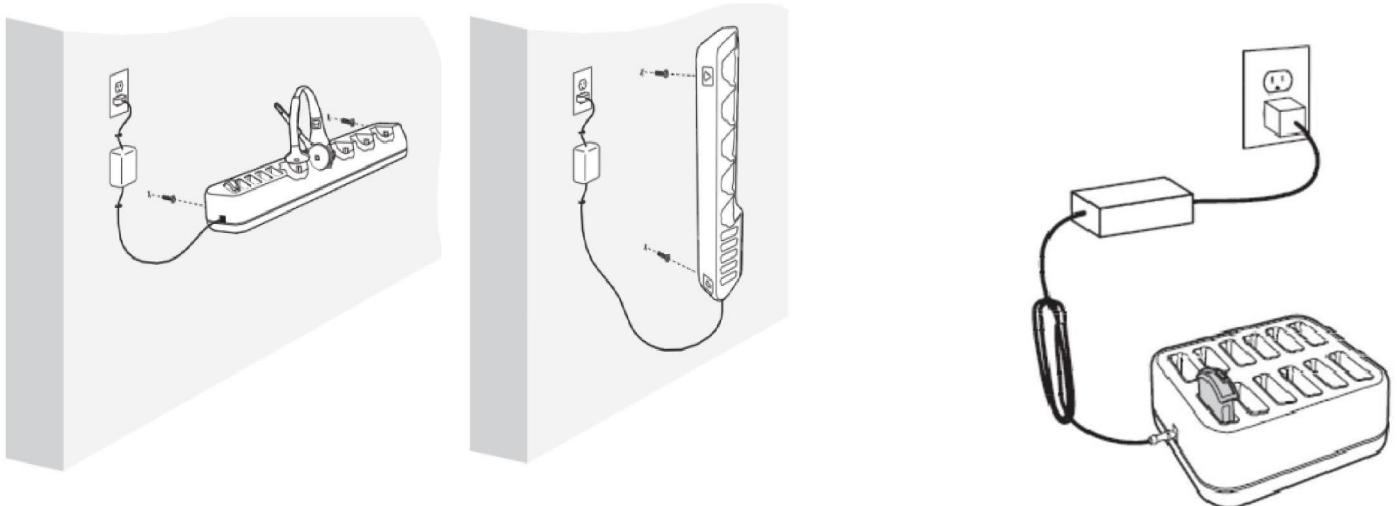
設置の設計

バッテリー充電器は以下のような場所に設置してください。

- デスクトップや棚などの 平らで乾燥した表面。
- 手が届きやすい壁面。
- 電源コンセントが機器の近くにあり、容易にアクセスできること。電源コードが挟まれたり、無理に曲げられたりしない場所に配置すること。

バッテリー充電器の取り付け

- 壁面に取り付ける場合: 壁の種類は多岐にわたるため、取り付け用ハードウェアは付属していません。12スロット充電器の場合は 最低0.6kg / 1.3ポンド、ヘッドセット充電ステーションの場合は最低 1.3kg / 2.9ポンドの荷重に耐えられる壁のタイプに適したアンカーを2本使用して固定してください。
- 取り付けない場合は、平らな表面に充電器を設置してください。
- PAR提供の電源アダプターを、壁のコンセントと充電器の間に接続します。



バッテリー充電器の仕様

物理仕様

パラメーター	仕様
重量	340.19g (0.75ポンド / 11.99オンス)
寸法	長さ約14.0cm×幅約15.2cm×高さ約5.1cm (長さ5-1/2インチ×幅6インチ×高さ2インチ)

電気仕様

パラメーター	仕様
電源	電源 – 出力: 12VDC、2A入力: (100~240) VAC 50/60Hz
消費電力	25W未満
充電時間	3~3.5時間

機能仕様

パラメーター	仕様
充電ポート数	12

ヘッドセット充電ステーションの仕様

物理仕様

パラメーター	仕様
重量	612.34g (1.35ポンド / 21.6オンス)
寸法	長さ約44.5cm×幅約7.6cm×高さ約7.0cm (長さ17-1/2インチ×幅3インチ×高さ2-3/4インチ)

電気仕様

パラメーター	仕様
電源	電源 – 出力: 12VDC、2A入力: (100~240) VAC 50/60Hz
消費電力	25W未満
充電時間	3~3.5時間

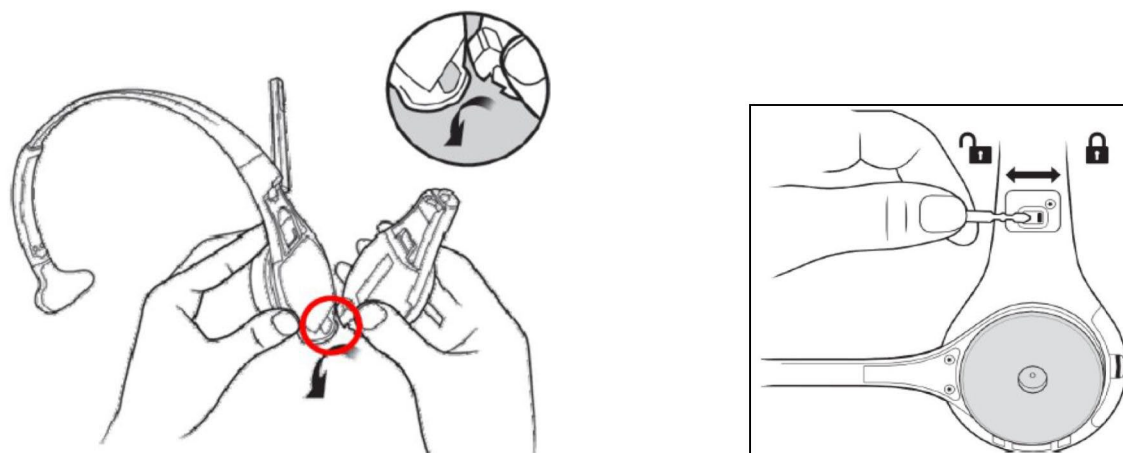
機能仕様

パラメーター	仕様
充電ポート数	5
充電兼用収納ポート数	5

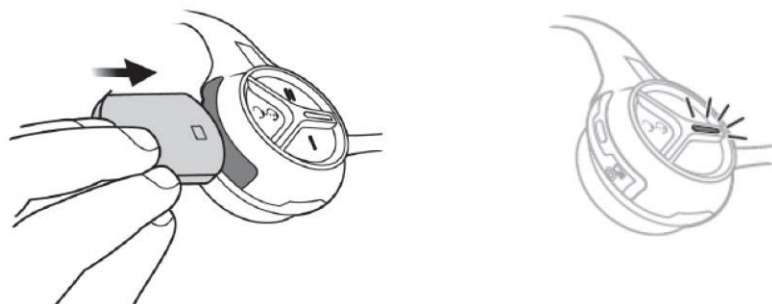
ヘッドセットの取り付け／セットアップ

バッテリーをヘッドセットに装着するには:

1. CARRIERにPODを差し込み、ロックスイッチをスライドさせてヘッドセットを完成させます

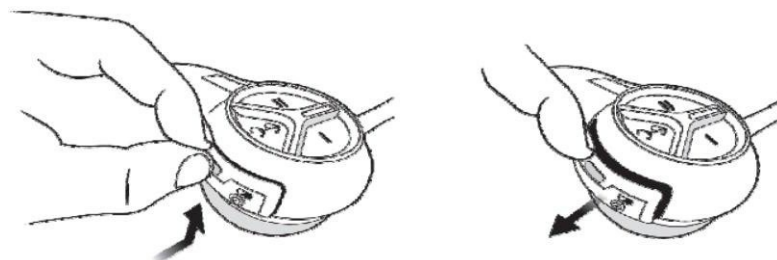


2. 以下のように、充電されたバッテリーをPODにスライドして装着します。



ヘッドセットからバッテリー取り外すには:

1. 指でバッテリーラッチを軽く押し上げます。これでバッテリーが解放されます。
2. 別の指でバッテリーをつまみ、バッテリー収納部から引き抜きます。



ヘッドセットの登録

1. 充電済みバッテリーをヘッドセットに装着すると、自動的に電源が入ります。
2. 提供されたリンクと認証情報を使用して、ウェブページ／ポータルにログインします。左側のパネルから**[Devices(デバイス)]**を選択し、自分のベースステーションを選びます。**[Actions(アクション)]**の(...)アイコンをクリックし、**[Settings(設定)]**を選択します。**[Volume & Devices(音量&デバイス)]** > **[Connected Devices(接続済みのデバイス)]**セクションの順に進みます。**[Headsets(ヘッドセット)]**タブを選択し、**[+ Register Headsets(ヘッドセットの登録)]**をクリックします。**[Waiting for Headsets(ヘッドセットを待機中)]**と表示されたポップアップウィンドウが開きます。ダイアログにはヘッドセットIDも表示されます。すべてのヘッドセットが登録されたら、**[Close Registration Mode(登録モードを閉じる)]**をクリックします。
3. 登録が完了すると、PODとCARRIERのLEDが緑色に点灯し、「Lane 1」という音声メッセージが流れます。または、PODとCARRIERのLEDが赤／緑に点灯し、「Lane 2」という音声メッセージが流れます。

G5 ヘッドセット インジケーター		
ライトモード	インジケ	モードの説明
	緑(点灯)	レーン1 車両なし、待機中
	赤／緑(点灯)	レーン2(デュアルレーン)車両なし、待機中
	青(点滅)	車両到着、未応答
	青(点灯)	車両あり、応答済み
	赤(点灯)	通話中(いずれかのレーンまたはページング)

ヘッドセットの登録解除

1. 提供されたリンクと認証情報(または指定のボタン操作手順)を使って、ウェブページ／ポータルにログインします。左側のパネルから**[Devices(デバイス)]**を選択し、自分のベースステーションを選びます。**[Actions(アクション)]**の(...)アイコンをクリックし、**[Settings(設定)]**を選択します。**[Volume & Devices(音量&デバイス)]** > **[Connected Devices(接続済みのデバイス)]**セクションの順に進みます。**[Headsets(ヘッドセット)]**タブを選択し、登録解除したいヘッドセットの横にある**[Actions(アクション)]**の(...)アイコンをクリックします。**[De- Register(登録解除)]**を選択すると、確認メッセージが表示されます。**[Yes, De-register(はい、登録を解除します)]**を選択します。ヘッドセットが登録解除されると、上部セクションにメッセージが表示され、アクションの正常な完了が示されます。

ヘッドセットの操作

PAR CLEAR ヘッドセット操作



PAR CLEARヘッドセットインジケータライトモード

インジケータ	モードの説明
	緑(点灯) レーン1 車両なし、待機中
	赤/緑(点灯) レーン2(デュアルレーン)車両なし、待機中
	青(点滅) 車両到着、未応答
	青(点灯) 車両あり、応答済み
	赤(点灯) 通話中(いずれかのレーンまたはページング)

注文受付のセットアップ

システムがどの注文受付モードを使用するかについては、店舗マネージャーまたは店舗の技術担当チームに確認してください。注文受付モードを変更する方法：

1. 提供されたリンクと認証情報を使用して、ウェブページ／ポータルにログインします。
2. 左側のパネルから[**Devices (デバイス)**]を選択し、自分のベースステーションを選びます。
3. [**Actions (アクション)**]の(...)アイコンをクリックし、[**Settings (設定)**]を選択します。
4. [**Order Taking (注文受付)**]に移動し、適切なレーンに必要な[**Headset Behavior (ヘッドセット動作)**]を選択して[**Apply Changes (変更を適用)**]をクリックします(各モードの詳細については、下表を参照してください)。

ML / PTT

手動リスニング (ML)

オペレーターはレーン通話ボタンを押して、(顧客の注文を聞くため)注文ポイントのマイクをオンにします。マイクは車両が離れるまでオンのままになります。

プッシュ・トゥ・トーク (PTT)

オペレーターは、ヘッドセットのマイクに向かって話す間、通話ボタンを押し続ける必要があります。ボタンを放すと、マイクはオフになります。

AL / PTT

自動リスニング (AL)

車両が検知されると、注文ポイントのマイクが自動的にオンになり、そのままオンの状態を維持します。マイクは車両が離れるまでオンのままになります。

プッシュ・トゥ・トーク (PTT)

オペレーターは、ヘッドセットのマイクに向かって話す間、通話ボタンを押し続ける必要があります。ボタンを放すと、マイクはオフになります。

ML / MLT

手動リスニング (ML)

オペレーターはレーン通話ボタンを押して、(顧客の注文を聞くため)注文ポイントのマイクをオンにします。マイクは車両が離れるまでオンのままになります。

手動ラッチトーク (MLT)

オペレーターはレーン通話ボタンを押して放すことで、ヘッドセットのマイクを「ラッチ」またはロックしてオンの状態にします。オペレーターは、通話ボタンを再度押して放すまで、ハンズフリーで会話を続けることができます。

ハンズフリー

ハンズフリー

注文ポイントの車両検知器が車両を検出すると、ヘッドセットのマイクは常にオンになります。ハンズフリーが「オン」の場合、自動待機も有効になるため、車両が検出されなくなるとマイクは自動的にオフになります。

屋外

屋外

注文受付者がヘッドセットを装着して屋外に立つ運用を予定している場合、屋外モードが最適です。このモードでは、注文ポイントのスピーカー、マイク、車両検知器が無効化されます。これにより、注文入力や特別なリクエストに関して、店舗内のスタッフとハンズフリーで通信することができます。

常時オン

常時オン

注文ポイントのスピーカーは常にオンになっており、車両検知器で車両が検出されていなくても顧客の声を常に聞くことができます。常時オンは特別なフェイルモードであり、車両検知器が使用できない場合に有効です。

音量設定の変更

インバウンドヘッドセット音量

インバウンドヘッドセット音量を変更すると、注文ポイントのマイクからヘッドセットのイヤホンスピーカーに届く音量が調整されます。インバウンド音量を調整するには:

1. 提供されたリンクと認証情報を使用して、ウェブページ／ポータルにログインします。
2. 左側のパネルから[**Devices (デバイス)**]を選択し、自分のベースステーションを選びます。
3. [**Actions (アクション)**]の(...)アイコンをクリックし、[**Settings (設定)**]を選択します。
4. [**Volume & Devices (音量 & デバイス)**]に移動し、[**Volume Settings (音量設定)**]、[**Headset Volume (ヘッドセット音量)**]を選択します。
5. [**Inbound Listen (インバウンドリスニング)**]を選択し、必要に応じて調整します。
6. 次に[**Apply Changes (変更を適用)**]をクリックします。

アウトバウンドレーン音量

アウトバウンドレーン音量を変更すると、注文ポイント側のスピーカー音量が調整されます。アウトバウンドレーン音量を変更する方法:

1. 提供されたリンクと認証情報を使用して、ウェブページ／ポータルにログインします。
2. 左側のパネルから[**Devices (デバイス)**]を選択し、自分のベースステーションを選びます。
3. [**Actions (アクション)**]の(...)アイコンをクリックし、[**Settings (設定)**]を選択します。
4. [**Volume & Devices (音量 & デバイス)**]に移動し、[**Volume Settings (音量設定)**]、[**Lane Volume (レーン音量)**]の順に選択します。
5. [**Outbound Talk (アウトバウンドトーク)**]を選択し、必要に応じて調整します。
6. 次に[**Apply Changes (変更を適用)**]をクリックします。

ヘッドセットの仕様

物理仕様

パラメーター	仕様
重量	112.9g(3.98オンス)(バッテリー含む)

電気仕様

パラメーター	仕様
入力電源	3.7VDC、リチウムイオン
無線周波数	DECT
最大出力	地域のDECT
イヤホン	ダイナミック、交換可能イヤーパード付き

機能仕様

パラメーター	仕様
スイッチ	静電容量式タッチキーゾーン
インジケーター	赤、緑、青色のLED
動作範囲	91m(300フィート) - 現場の環境による
動作温度	0°C～60°C

バッテリーの仕様

物理仕様

パラメーター	仕様
重量	長さ約5.7cm×幅約4.4cm×高さ約1.6cm(長さ2-1/4インチ×幅1-3/4インチ×高さ5/8インチ)
寸法	31.18g(0.068ポンド / 1.1オンス)

電気仕様

パラメーター	仕様
消費電力	800mAh、3.7VDC、リチウムイオン

機能仕様

パラメーター	仕様
インジケーター	緑色のLED×4

化学仕様

パラメーター	仕様
セルタイプ	充電式リチウムイオン電池(短絡保護付き)

一般的なネットワークケーブルの設置

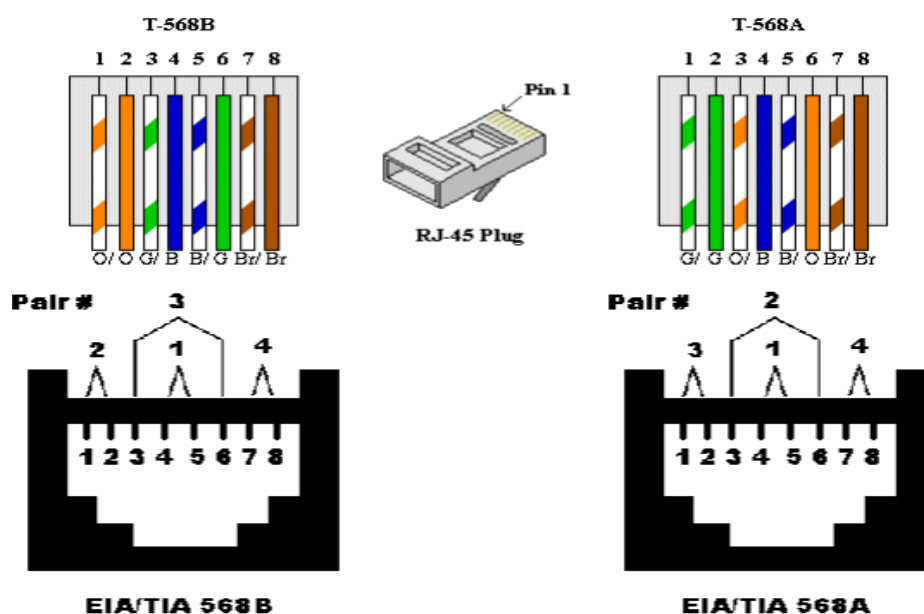
このセクションでは、PAR Clearヘッドセットシステムに関する一般的な設置情報を提供します。ここでは10/100/1000BaseT LANケーブルの設置および周辺機器ケーブルの接続について説明します。

代表的なツイストペア配線規格

PAR Clear LANスキームで使用される10/100/1000BaseTホームランケーブルは、CAT5e 非シールドツイストペア(UTP)ケーブルです。UTPケーブルは8本の導体からなり、4組のツイストペアに構成されています。各ツイストペアは、単色の導線と白に同色のストライプが入った導線を組み合わせて構成されています。ペアの色:

- 橙と白／橙
- 緑と白／緑
- 青と白／青
- 茶と白／茶

現在、UTP LANケーブルには2つの規格が存在します。T-568AおよびT-568B この2つの規格の違いは、ペア2とペア3のピン割り当てのみです。



ネットワークケーブル接続

注記: 上記の配線接続は、RJ-45プラグ専用です。

ループおよびケーブルの状態確認テスト

各注文ポイントについて、ループのインダクタンス(誘導値)および抵抗値を測定し、必要であればコメント欄に「交換を推奨」と記載してください。インダクタンスループの状態を確認するには、2種類のテストを行う必要があります。

導体の直線抵抗およびインダクタンスのテスト

この試験では、ベースステーションに接続されたループ導体(ワイヤ)の抵抗値とインダクタンス値を測定します。ループ線のインダクタンスと抵抗を測定するには:

1. LCRメーター(インダクタンス [L]、静電容量 [C]、抵抗 [R] を測定可能な機器)を使用します。
2. 抵抗値が 1.2Ω 、インダクタンス値が $100\sim 120\mu\text{H}$ (または導線1ターンあたり $20\mu\text{H}$)の測定結果であれば、配線状態が良好であることを示しています。

絶縁抵抗試験

導体抵抗の変化には、上記の要因だけでなく、氷・水・霜などの要因も関与します。しかし、導体抵抗の測定だけでは不十分で、絶縁の対地/アースへの漏れを把握することはできません。

絶縁リークは、最大 $500\text{M}\Omega$ (5億 Ω)まで測定可能な $\text{M}\Omega$ メーター(業界用語ではメガメーターまたはメガメグアウトとも呼ばれています)を使用して確認できます。

この試験では、直流電圧をループ線に印加し、通常の電源が加わった際に短絡を引き起こす可能性のある絶縁損傷がないかを確認します。メガは、ループに対して $500\sim 1000\text{V}$ を印加できる設定を備えています。この試験では 500V を超えて印加しないでください。絶縁を損傷するおそれがあります。ケーブルの絶縁定格は 600V です。

手順

1. ループ検出器からループ線を外し、ループが浮いた状態にします。
2. メータリードの一方をループ線に、もう一方を接地(アース)に接続します。
3. 試験結果の判定:
 - a. $20\text{M}\Omega$ 以上 = 合格
 - b. $20\text{M}\Omega$ 未満 = ループ線の絶縁が損傷している、またはループの健全性に問題がある可能性があります
 - c. $10\text{M}\Omega$ 未満 = ループ線を交換してください

Saw – インループ仕様

パラメーター	仕様または要件
PAR 検出器ループシーラント	1 クォートカートリッジ×2
電源タイプ	14AWG、19 本撚り裸銅線、0.015 インチ厚ポリ塩化ビニル絶縁体 (0.004 インチ厚ナイロンジャケット付き)、600V 耐圧、UL 認定 90°C耐熱性 MTW、耐ガンリン性・耐オイル性、長さ約 30m (100 フィート)。

Prefab ループ仕様

パラメーター	仕様または要件
ループの誘導値	100μH
ループチューブ	½インチ スケジュール 40 PVC
ループ線	18AWG、7 本撚り銅線、PVC 絶縁、5 巻き
リードインケーブル	16AWG、19×29 撚り線銅、2 芯 (シールド付き)、20AWG ドレイン線、マイラーシールド、長さ約 6m (20 フィート)。外皮は高密度ポリエチレン、直接埋設可能

デュアルレーンの設置・設定

デュアルレーンを設定するには:

1. 2基目のスピーカーポストに対して、[デジタルマイクおよびスピーカーの設置手順](#)と[LAI設置手順](#)を繰り返します。
2. 2本目のループおよび PTIOを、[車両検出ボード \(VDB\) 設置手順](#)に従って配線します。
3. 2本目のLAI POEイーサネットケーブルを、POEスイッチの空きポートに接続します。
4. [**Devices (デバイス)**]タブを開き、ベースステーションを選択し、[**Edit (編集)**]をクリックして「Number of lanes purchased (購入済みレーン数)」で「2」を選択します。
5. [**Apply (適用)**]をクリックして設定を保存します。

ネットワーク仕様・要件

PAR Clearネットワークの要件

ネットワーク	タイプ:	要件:
サイト回線	安定したブロードバンドインターネット	速度: 10Mbps以上

Clear System Cloud	DHCP	静的設定の場合
接続方式	自動	静的 IP: _____ サブネット マスク: _____ デフォルト ゲートウェイ _____ DNS: _____

ルール	ドメイン	ポート
Clearデバイス	https://portal.drivethru.partech.com http://a3wmqvyfiyzi-ats.iot.us-east-1.amazonaws.com/ http://s3.us-east-1.amazonaws.com/	アウトバウンド: TCP、443 アウトバウンド: TCP、8883 アウトバウンド: TCP、7800
NTP	ntp.ubuntu.com	アウトバウンド: UDP、123

トラブルシューティング

カテゴリ／症状	症状	原因と解決方法
インストール	ベースステーションを初めて Drive-Thru Cloud に接続するには、どのような手順が必要ですか？	原因: ベースがフリート登録されていない 解決方法: ユーザーにG-Portal ガイドを送付する。すべてのサポートメンバーは製品ガイドにアクセスできるようにしておくこと。 これはベースステーションを設置する際に、設置担当者によって実施される必要がある。
インストール	Drive-Thru Cloud にログインできない。	原因: ユーザーが未登録、またはパスワードの有効期限切れ 解決方法: -ユーザーが未登録の場合は、PAR 管理サポートに連絡してユーザーを追加する。その後、ユーザーはログインしてパスワードを設定するためのメールを受け取る。 すでにユーザー登録されている場合は、「パスワードをお忘れですか」リンクをクリックしてパスワードをリセットし、メールを確認する必要がある。

カテゴリ／症状	症状	原因と解決方法
インストール	Drive-Thru Cloud上で自分のサイトが見つからない	原因: サイトが作成されていない、またはスペル／住所が一致していない 解決策: DT Cloud にログインし、 [Organizations(組織)]へ進み、その後[Sites(サイト)]に移動します。サイト名または登録済みメールアドレスを検索ボックスに入力します。 サイトが見つからない場合は [Add New Site(新しいサイトを追加)]をクリックします。メールまたは名前で見つかった場合は、スペルが完全に一致しているか確認し、必要に応じて [Actions(アクション)] > [Edit(編集)] をクリックして修正します
インストール	G-Portal をベースステーションに接続できない	原因: -イーサネットポートが間違っている -インターネット接続が安定していない、または接続されていない -イーサネットケーブルの不良 解決方法: -G-PortalはベースステーションのLAN2コネクタを使用してセットアップします。LANケーブルがLAN2に接続されていることを確認してください -初めてG-Portalにアクセスする場合は、コンピューターまたはノートパソコンをベースステーションのデフォルトと同じ静的IP範囲に設定してください。 -初めてG-Portalにアクセスする場合は、コンピューターまたはノートパソコンにアクティブなインターネット接続があることを確認してください。 -同じ店舗ネットワークに直接接

カテゴリ／症状	症状	原因と解決方法
		続している場合は、ブラウザに正しいアドレスを入力してください。 「http://m7800-0810:7800/」と入力してG-Portalにアクセスします
インストール	ベースステーションでのローカル設定用に、次のURLが機能しない： <u>localhost/cgi-bin/home.php</u>	システムの初期構成を行うためにG-Portalにアクセスする際は、ベースステーション上のUbuntuデスクトップからローカルで「localhost:7800」のアドレスを使用してください また、ベースステーションと同じLANに接続されているPC／ノートPCから、ベースステーションのIPアドレスを使用してG-Portalにアクセスすることも可能です。<IPアドレス>:7800

カテゴリ／症状	症状	原因と解決方法
インストール	LAIをStaticからDHCPに変更する方法は？	1. WindowsのCMDを開きます。 2. デフォルトのIPに設定されている場合は、以下を入力します。そうしない場合は、リセットボタンを10秒間押し続けてください。 ssh debian@192.168.99.3 pw = PLEASE CALL PAR 3. 次に以下を入力します。 sudo/usr/bin/set_ip_address .sh -c eth0 -h 4. これでLAIがDHCPに設定されます。
インストール	インバウンドがなく、アウトバウンドのみ	LAiマイクへの接続を確認し、音量が正しく設定されていることを確認してください。 最終手段としてLAIを再起動してください。
インストール	アウトバウンドがなく、インバウンドのみの場合	LAiスピーカーへの接続を確認し、音量が正しく設定されていることを確認してください。 最終手段としてLAIを再起動してください。
インストール	ヘッドセットに風切り音が入る	ウィンドスクリーンが装着されていること、ノイズリダクションが適切に設定されていることを確認してください。
インストール	LAIのLEDが点灯しない	イーサネットケーブルがLAIにしっかりと差し込まれており、POEスイッチにも接続されていることを確認してください。 POEスイッチに電源が入っていることを確認してください。

カテゴリ／症状	症状	原因と解決方法
インストール	ヘッドセットに「Out of range (範囲外)」と表示される	トランシーバーがベースステーションに接続されており、USBが最後まで差し込まれていることを確認してください。 WMTにLEDが点灯している場合、最後の手段としてWMTを再起動してください。
インストール	コマンドコンソールに画面が表示されない	電源が接続されていることを確認してください。 コマンドコンソール底面にある茶色のプッシュボタンを押します。
車両検知	特定のレーンで車両検知が機能しない	VDBをリセットします。 ループからの配線を確認してください VDBからPTIOボードへの配線を確認してください
車両検知	全ヘッドセットで車両検知が動作しない	VDBの配線を確認してください VDBをリセットします。 ベースステーションとトランシーバーをリセットします

改訂履歴

日付	改訂	変更の説明
2024 年 11 月 25 日	A	初回リリース
2025 年 2 月 6 日	B	LAIの構成/インストール、ループ検出器テスト、コマンドコンソール、G-Portal構成、および仕様に関するセクションを追加
2025 年 3 月 18 日	C	改訂 Haul
2025 年 3 月 26 日	D	ポータルのスクリンショットを削除
2025 年 6 月 4 日	E	「 PARスピーカー仕様 」セクションに仕様を追加し、いくつかの不正確な相互参照を修正。
2025 年 7 月 2 日	F	改訂をWindChillと同期、フォーマット上の変更なし。
2025 年 8 月 18 日	G	G-Portalのトラブルシューティングセクションを更新し、「LAN1」を「LAN2」に変更。「 PAR G-Portalセットアップ 」および「 ベースステーションへのログイン 」セクションを更新。